

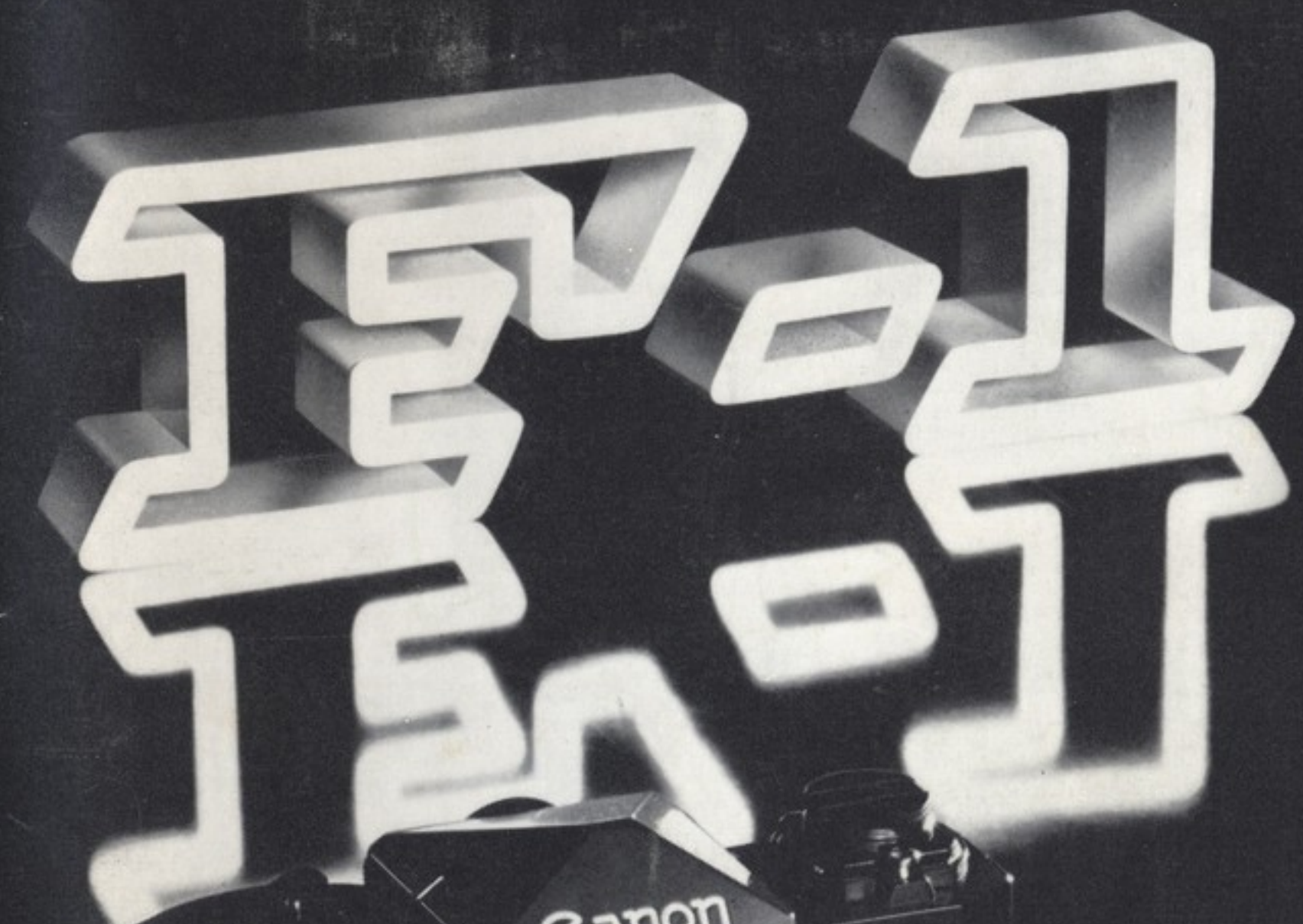
キヤノン株式会社
キヤノンカメラ販売株式会社

東京都中央区銀座5-9-9 〒104 ☎(03) 572-4251

東京営業所・(105) 東京都港区芝公園11-6-2 (03) 432-8111
 横浜営業所・(231) 横浜市中区南仲通り4-39 (石橋ビル1階) (045) 201-2176
 銀座サービスステーション・(104) 東京都中央区銀座5-9-9 (吹原ビル1階) (03) 572-4251
 大阪営業所・(541) 大阪市東区瓦町5-39 (大阪化機会館3階) (06) 202-6761
 * 京都分室・(600) 京都市下京区四条通東洞院角 (富国生命ビル4階) (075) 241-3865
 大阪サービスステーション・(530) 大阪市北区梅田2 (第一生命ビル2階) (06) 341-9335

営業所・サービスステーション

札幌・(060) 札幌市北三条西4-1 (第一生命ビル4階) (011) 231-1313
 仙台・(980) 仙台市一番町3-1-1 (富士ビル8階) (0222) 22-1571
 新潟・(950) 新潟市東大通1-4-1 (マルタケビル7階) (0252) 46-0131-3
 静岡・(420) 静岡市鷹匠2-7-2 (静米会館1階) (0542) 55-2241
 名古屋・(450) 名古屋市中村区堀内町4-1 (毎日会館2階) (052) 581-3811
 岡山・(700) 岡山市平和町4-7 (0862) 22-8228
 広島・(730) 広島市機町1-4-1 (0822) 21-4615-6
 福岡・(812) 福岡市博多駅前4-20-23 (セントラルビル1階) (092) 41-4172



使用説明書

Canon
F-1

10⁴ システムが形成するキャノン F-1

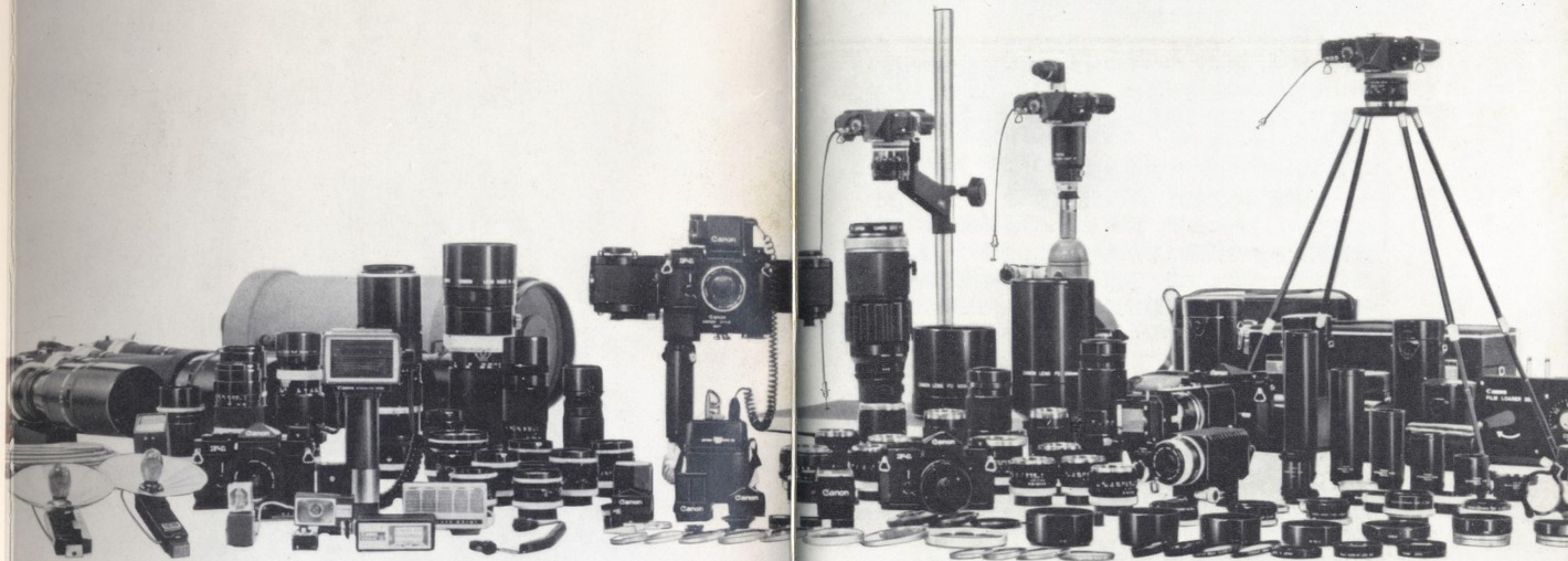
キャノン F-1 は、写真撮影の技術を高度の専門分野にまで押し広げ、当初から広範囲のシステム機能を目論んで開発された、マンモスシステムの中核機です。

部品 10,000 点によって構成され、各アクセサリーと本体間に完全互換性ありという精度の高さにおいて、金字塔をうちたてたものです。

もちろん信頼性は、厳しい環境テストによって一段と高め

られシステムを守る背景となっています。

アクセサリーには、エレクトロニクス技術を駆使した強力なモータードライブユニット、ユニークなサーボ EE ファインダー、微光量測光用ブースター T ファインダー、250 枚連続撮影用フィルムチェンバー 250 を主力に 180 種以上、交換レンズには、新設計高品質の FD シリーズが 20 本以上予定され、かつてない機能でお目見えます。



このたびはキヤノン F-1 をお選びくださいますことありがとうございます。
 とうございます。

キヤノン F-1 は総合システムとして交換レンズ，アクセサリーのすべてを一挙に開発したもので，範囲の広さ，性能の高さでは，現段階の最高水準を示すものです。交換レンズの豊富さも比類がなく，特殊レンズの開発をはじめ広角，望遠の整備により，F-1 の機能を強化しています。また FL レンズシリーズもすべて完全を使用できるため，レンズに関してのあらゆる要望が満たされます。

アクセサリーでは，モータードライブ，サーボ EE ファインダー，ブースター T ファインダー，長尺マガジン等の四大アクセサリーを含む 180 種以上のシステムチックな製品化により，あらゆる撮影を可能にしています。したがって撮影目的に応じて必要な製品を自由にお選び頂けます。

ご使用のはじめに

まず使用書をお読みください。各部の名称を覚え，操作も順を追って理解しましょう。



主な特長とシステム

10万回耐久，高品質のボディ

作動は10万回耐久，部品は1/100mm精度，厳しい環境テストを経た完璧な作動と互換性をお約束します。

ピント面精度，シャッター精度，ミラー作動，巻上げ，フィルム平面性，測光精度などを安定させた基礎構造は堅実で，レンズ，ファインダー，ピントガラス，底蓋，裏蓋等の各交換部も着脱がきわめてスムーズです。

設計検討も十分に行い，作動分析は高速写真により，材質選択は新素材にまで及び，仕上げは丹念に行うなどあらゆる面でボディ機能をハイレベルにしています。シャッタースピード1/2000秒も高速化時代への挑戦です。

レンズ群の拡大

広角，望遠，標準，すべての分野において性能拡張をはかりました。性能向上には，ボディ同様の精度をもたせ，解像力，収差補正に厳しい条件を与え，十分に満足すべきものとしています。

今後10年間最高の性能を確保する目標で，コンピューターを駆使した大幅な光学設計活動によって生まれたレンズです。さらに魚眼，あおりレンズ，非球面レンズなど特殊レンズの開発にも意欲的です。独特の焦点調節機構，多層コーティング，新素材の投入等可能な限りの技術を盛り込み，F-1の撮影分野を一段と強化します。

焦点距離も7.5mmから1200mmまで豪華なシステムです。

ユニバーサルな測光システム

開放，絞込み，EE，微光量，無人。

FDレンズシリーズおよびアクセサリーの開発と相俟って，レンズ交換式一眼レフとしては可能な限りの信号伝達機構を盛り込み，TTL方式にバラエティをもたせた測光機構です。

開放測光，絞込み測光兼用でFDレンズ以外の場合には，絞込み測光で適正露出が決定できます。

またFDレンズと各種アタッチメントとの併用により，測光機能がさまざまに展開される機構です。

EE 測光

サーボEEファインダーを取付けると，開放測光でシャッター優先式EEが可能となります。

無人撮影

サーボEEファインダーとモータードライブユニットを併用すれば，無人でEE撮影が可能となり，さらにフィルムチェンバー250を取付け，長尺撮影に発展させることができます。

微光量測光

ブースターTファインダーを交換取付けると，絞込みによりEV-3.5まで測光ができ，タイマー連動により長時間露出が容易に行えます。

独特の焦点面測光

ピントガラスに最も近い位置にCdSを配置し，中央部の最も良質の光を最大限受光部に送込む最良の方式です。F-1はこの方式を開放で行うものです。

開放F値自動補正のTTL測光

FTによって確立された絞込みによる中央部焦点面測光を開放に発展させた独特の測光方式で，FDレンズはこの開放F値誤差をボディ側と連動して自動補正するものです。取付け時の調節は一切不要で，直ちに開放のまま測光がはじめられます。

絞込み測光

FLレンズは，開放測光信号がないため従来のFTと全く同様絞込みによって，正しい露出が行えるようになっています。したがってF-1では，FD，FLレンズのすべてが駆使できます。

多目的のファインダーシステム

着脱式で最も良く検討されたシステムとなっています。交換ファインダーには、サーボ EE ファインダー、ブースター T ファインダー、標準のアイレベルファインダー、スピードファインダー、ウエストレベルファインダー等があり、用途によって使い分けできます。

着脱は、ボタンにより引抜く方式できわめて容易です。またフォーカシングスクリーンも交換可能です。

接眼部には、アングルファインダー、マグニファイヤー、視度補正レンズが用意され、使用者の好みおよび用途によって、自由に選択、交換できるようになっています。

明るい視野

標準のフォーカシングスクリーンには、マイクロプリズムが組込まれており、眼の特性に合わせたプリズムのピッチおよび角度を採用し、ピントを合わせ易くしてあります。また高感度 CdS によりファインダー内ハーフミラーの反射率を減らし、プリズム各面にはコーティングを施したため、視野が明るく、見えもすっきりしています。さらにゴースト除去も十分です。

明瞭な撮影情報

メーター指針、追針、チェッカー定点、警告マーク、シャッタースピード等のメーター情報をファインダー視野外に抜出して見せますから、作画上のわずらわしさがなく、視野も見易くきわめて便利です。

独自のフラッシュオート機構

一般のフラッシュ撮影のほか、専用ストロボ、指定レンズ、フラッシュカプラー L および距離信号用フラッシュオートリングの併用により、絞り値の決定を開放測光のまま、ファインダー内で追針式に行えるフラッシュオート機構です。

ストロボの電圧チャージとピント合わせが信号としてメーター指針に入りますから、絞りリングを回して追針を重ねるだけで適正絞りがきめられます。

従来のガイドナンバー計算を全く不要とし、安心してストロボ撮影が楽しめる機構です。

使用できるレンズは、当面、FD 50mm F 1.4, F 1.8, FD 35mm F 2 の 3 本ですが、他のレンズにも及ぼして行く予定です。

タイマー付きモータードライブユニット

1 秒間に 3 枚の高速連続撮影から 1 分 1 コマまでの 7 段階タイマー付きモータードライブユニットで、単独撮影も可能です。F-1 底蓋と交換使用し、B 以外のシャッタースピードがすべて使用できる強力なユニットです。

長尺撮影可能フィルムチェンバー 250

モータードライブユニットと併用し、250 コマの連続記録が行えます。

リモートコントロールと無人撮影

モータードライブユニットやチェンバーと併用し、リモートコントロールが可能です。サーボ EE ファインダーを取付けると EE でリモートコントロールが行え、さらにスイッチロックにより無人撮影となります。

電源システム

共通のバッテリーケースを主体として形成され、モータードライブユニット、サーボ EE ファインダーなどの電源のほか、ブースターの外部電池、専用ストロボの電源等に利用されます。その他ベローズ FL を中心とする接写、拡大システムのほか、従来の一眼レフ用アクセサリも使用可能です。

F-1 主要性能

型 式: 35mm フォーカルプレーンシャッター式一眼レフレックスカメラ
画面サイズ: 24mm×36mm
レ ン ズ: 開放測光用信号レバーをもつ FD シリーズ標準および交換レンズ群
標準レンズ: キヤノン FD 55mm F 1.2 FD 50mm F 1.4 FD 50mm F 1.8
ファインダー: 取りはずし可能なペンタプリズムファインダー
交換ファインダー: サーボ EE ファインダー プースター T ファインダー スピードファインダー ウェストレベルファインダー
ファインダーアタッチメント: マグニファイヤー 視度補正レンズ アイカップ (裸眼 眼鏡兼用型) アングルファインダー B
ピントグラス: フレネルレンズ使用 マイクロプリズムスクリーン距離計つき標準ピントグラスのほかに交換用3種
ハーフミラーコンデンサー: 測光用ハーフミラー付きカットコンデンサー
視野情報: 距離計 測光部範囲などのピントグラス情報
メーター情報: メーター指針および追針 不適正露出警告赤マーク 絞込み測光用定電圧兼バッテリーチェックマーク シャッタースピード目盛 メーター連動範囲外警告信号
倍 率: 標準 50mm レンズ無限遠で 0.77倍
視 野: 実画面に対する比率97%
視 度: 標準-1.2 ジオプター (ただし標準はリングのみ) 視度補正レンズによる交換調節 +3 +2 +1 0 -2 -3 -4 ジオプターの7種
ミ ラ ー: クイックリターンミラー ショック吸収機構つき ミラーのはね上げロック可能 ロックした場合自動的に手動絞りにセットされる
レンズマウント: バヨネット式 FD マウント FL R 各レンズ取付け可能
取付け機能: FD レンズ—開放測光 自動絞り連動
FL レンズ—絞込み測光 自動絞り連動
R レンズ—絞込み測光 手動絞り
シャッター: 極薄チタン幕使用 二軸式フォーカルプレーンシャッター 作動音およびショック防止用特殊ブレーキ機構付き シャッターボタンロック可能
シャッターダイヤル: 一軸不回転式 シャッタースピード目盛および ASA 目盛セット 連動ダイヤル連結ピンおよびガイドピンあり
シャッター速度: B 1 2 4 8 15 30 60 125 250 500 1000 2000
倍数系列等間隔目盛 60は X 接点
フィルム感度目盛:
ASA 25 . . 50 . . 100 . . 200 . . 400 . . 800 . . 1600 .
(32 40) (64 80) (125 160) (250 320) (500 640) (1000 1250) (2000)
セルフタイマー: 内蔵 シャッターボタンで始動 時限約10秒 セルフタイマーレバーは絞込み測光レバー兼用

測光調節機構: 開放測光; シャッタースピード フィルム感度 絞り値に連動する追針式 TTL 開放測光機構 FD レンズの開放 F 値自動補正機構付 受光素子に広範囲 高感度 CdS を使用しカットコンデンサー後方に配置した中央焦点測光方式 測光面積は画面の約12% サイズは 12×8mm
絞込み測光; 絞込み測光レバー使用による定点式測光 測光レバーのロック可能 FL R レンズおよび手動絞りに使用
露出計連動範囲: ASA 100 EV 2.5 (F 1.2 1/4 秒) ~EV 18 (F 11 1/2000 秒)
低輝度の連動範囲外ではメーター情報窓が赤変する
メーター用電池: 1.3V H-D 型水銀電池 1コ使用 松下H-D 東芝TH-KC MALLORY PX-625 EVEREADY EPX-625 に相当
電池チェッカー: 内蔵 ASA 100 1/2000 で確認
TTL 開放測光 EE: 専用サーボ EE ファインダーとキヤノン標準電源を併用し FD レンズによる開放測光でシャッター優先式 EE となる
連動範囲 ASA 100 EV 2.5~EV 18
超低照度測光: 専用プースター T ファインダーの使用により ASA 100 EV 15 (F 22 1/60 秒) ~EV -3.5 (F 1.2 15 秒) まで測光可能
シンクロフラッシュ: FP および X 接点 タイムラグ自動調整式
ソ ケ ッ ト: ボディ側面に JIS B 型ソケット 巻戻しノブ部には 直結カプラー用フラッシュ直結接点およびフラッシュオートコントロール接点あり
CAT システムの導入: 充電圧量および測距信号による追針式絞りコントロール本機ではキヤノンスピードライト 133D フラッシュオートリング フラッシュカプラー L および指定の FD 50mm F 1.4 F 1.8 および FD 35mm F 2 レンズとの連結により メーター追針方式で適正絞りが決定できるシステム (CANON AUTO TUNING SYSTEM)
同 調 範 囲: FP 級 1/2000~1/125 秒 1/30 秒以下
スピードライト 1/60 秒以下 キャッツは 1/60 秒専用
M MF 級 1/30 秒以下
フィルム装填: 多スリット型フィルムスプール採用の迅速装填
巻上げレバー: 小刻み巻上げ可能 1作動 180° 回転レバー 予備角15°
フィルム巻戻し: 巻戻しボタンおよびクランクによる 巻戻しボタン自動復帰
二 重 露 出: 巻戻しボタン操作により可能
裏 蓋: クランク引上げ式 安全ロック装置付き 取りはずしてフィルムチェンパー 250 の取付け可能
底 蓋: 取りはずしてモータードライブユニット取付け可能
フィルムカウンター: 裏蓋開閉に連動する自動復帰順算式
アクセサリシュー: 専用 巻戻しノブ部にあり フラッシュカプラー D フラッシュカプラー L 等の取付け可能
大きさ・重量: 146.7×98.7×43mm・ボディ 820g FD 50mm F 1.4 付 1,180g

- ・水銀電池のつめ方16
水銀電池のチェック
- ・フィルムの巻上げ操作18
巻上げとシャッターボタン 撮影枚数表示 シャッターの安全装置 ケーブルレリーズの取付け
- ・シャッターと絞り22
シャッターと絞りの調節 シャッターダイヤル レンズの絞り 自動絞り 手動絞り
- ・ピントの調節28
- ・露出のきめ方30
TTLメーターの使い方 その準備 (フィルム感度のセット)
- ・開放測光32
- ・絞込み測光36
絞込み測光 絞込み測光レバー
- ・ファインダーの交換40
フォーカシングスクリーンの交換 交換のしかた
- ・カメラの構え方44
- ・フィルムをつめ方46
裏蓋の開き方 フィルムの装填 “正しいフィルム装填” の確認 フィルムの感度表示
- ・フィルムの巻戻し50
- ・セルフタイマー52
- ・フラッシュ同調53
露出の決定 フラッシュオートリング用距離信号ピン



- ・レンズの取扱い56
レンズの交換 レンズ信号 距離目盛 赤外マーク フィルム位置マーク FDレンズマウント (FLレンズと Rレンズ) 被写界深度目盛 被写界深度の性質
- ・ミラーのはね上げロック62
- ・二重露出64
- ・キヤノンフィルターのおすすめ65
- ・付属品の取扱い66
底蓋 裏蓋 レンズキャップ フード ネックス
トラップ
- ・四大アクセサリ68
- ・交換レンズ70
- ・アクセサリ71
- ・カメラの保存と手入れ75



撮影手順 1 フィルムをつめる

46 頁

2 感度を合わせる

30 頁

3 レバーを巻上げる

18 頁

4 キャップをはずす

5 ファインダーを覗く

6 ピントを合わせる

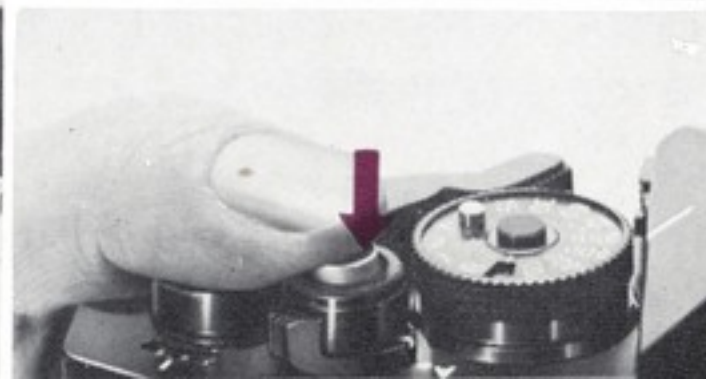
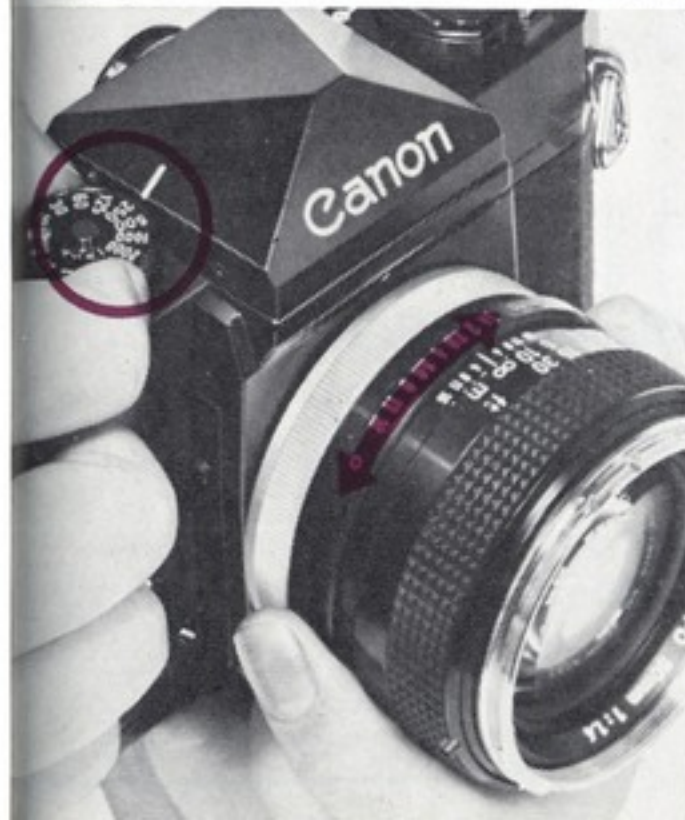
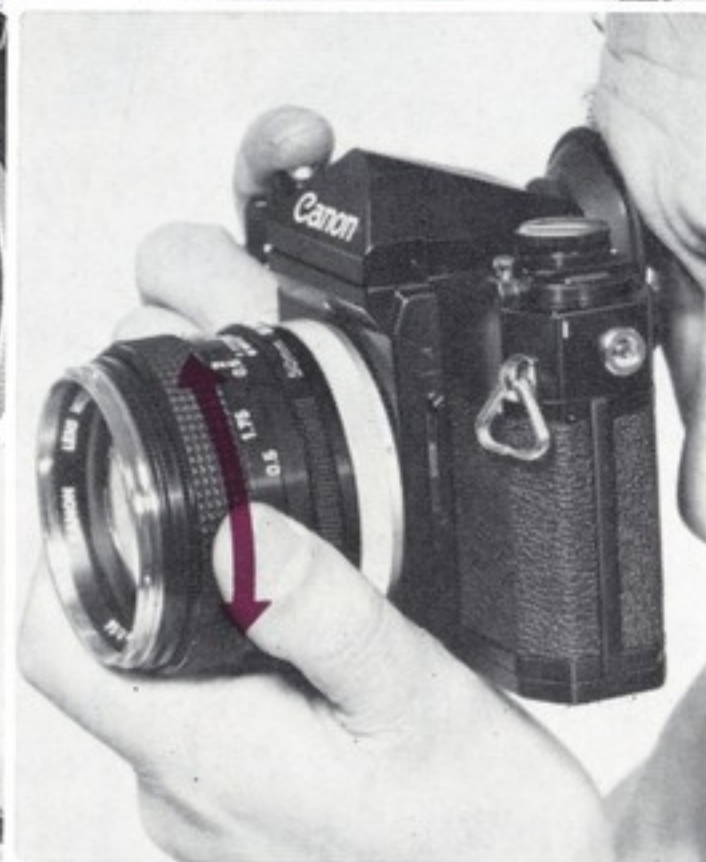
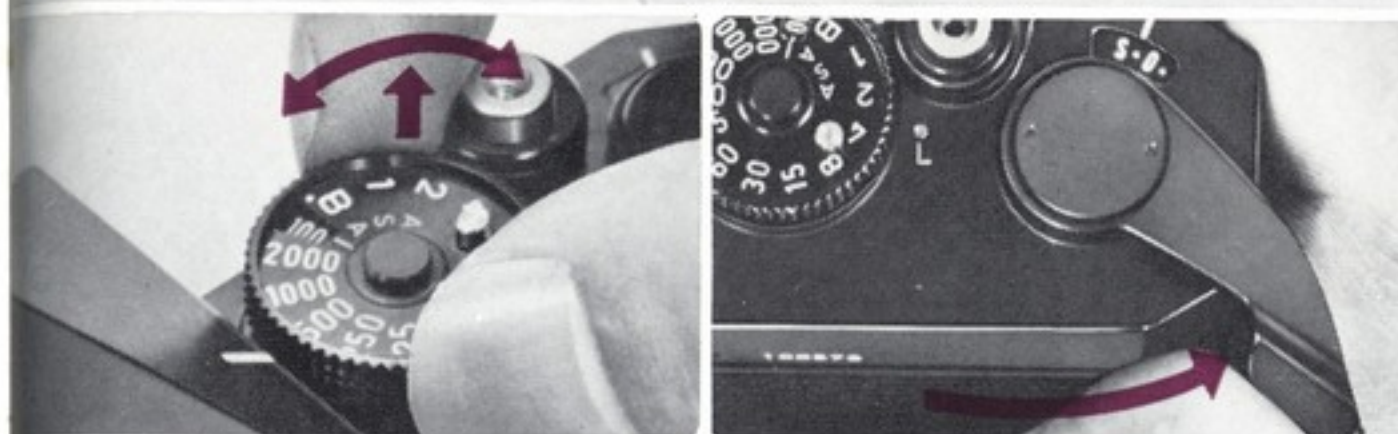
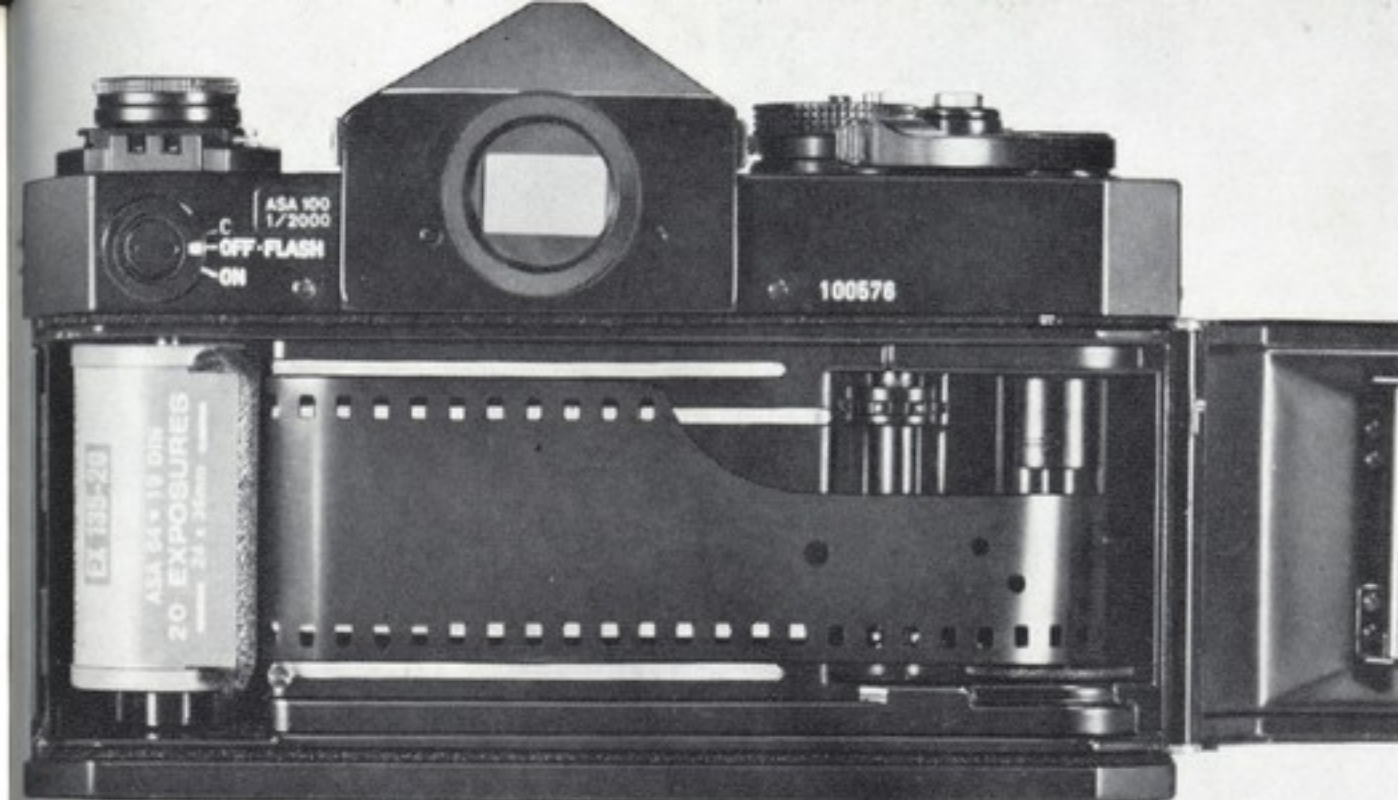
28 頁



7 メーターで露出をきめる

30 頁

8 構図をきめてシャッターボタンを押す



1
2 3
4 5
7 6
8

水銀電池の つめ方

別封の水銀電池をカメラ底部の水銀電池室につめてください。

水銀電池は内蔵メーターの電源ですから、入れ忘れるとメーターが作動しません。

- 1 水銀電池室蓋のコイン溝を硬貨で左回ししてはずし、
- 2 水銀電池の中心接点のある方(⊖)を奥に向けて挿入し、蓋をねじ込みます。逆に入れますとねじ込めません。

●水銀電池はナショナル製 H-D 型もしくは東芝 TH-KC を使用します。米国の Mallory PX-625, Eveready EPX-625 に相当し、約 1 カ年の使用に耐えます。

●汗や指紋を拭きとってください。水銀電池に汗や指紋をつけたまま挿入しますと、腐蝕してカメラの電気接点を損うおそれがあります。十分ご注意ください。

●長期間使用しないときは、水銀電池を抜取りカメラを乾燥した場所へ保存しておいてください。

水銀電池のチェック

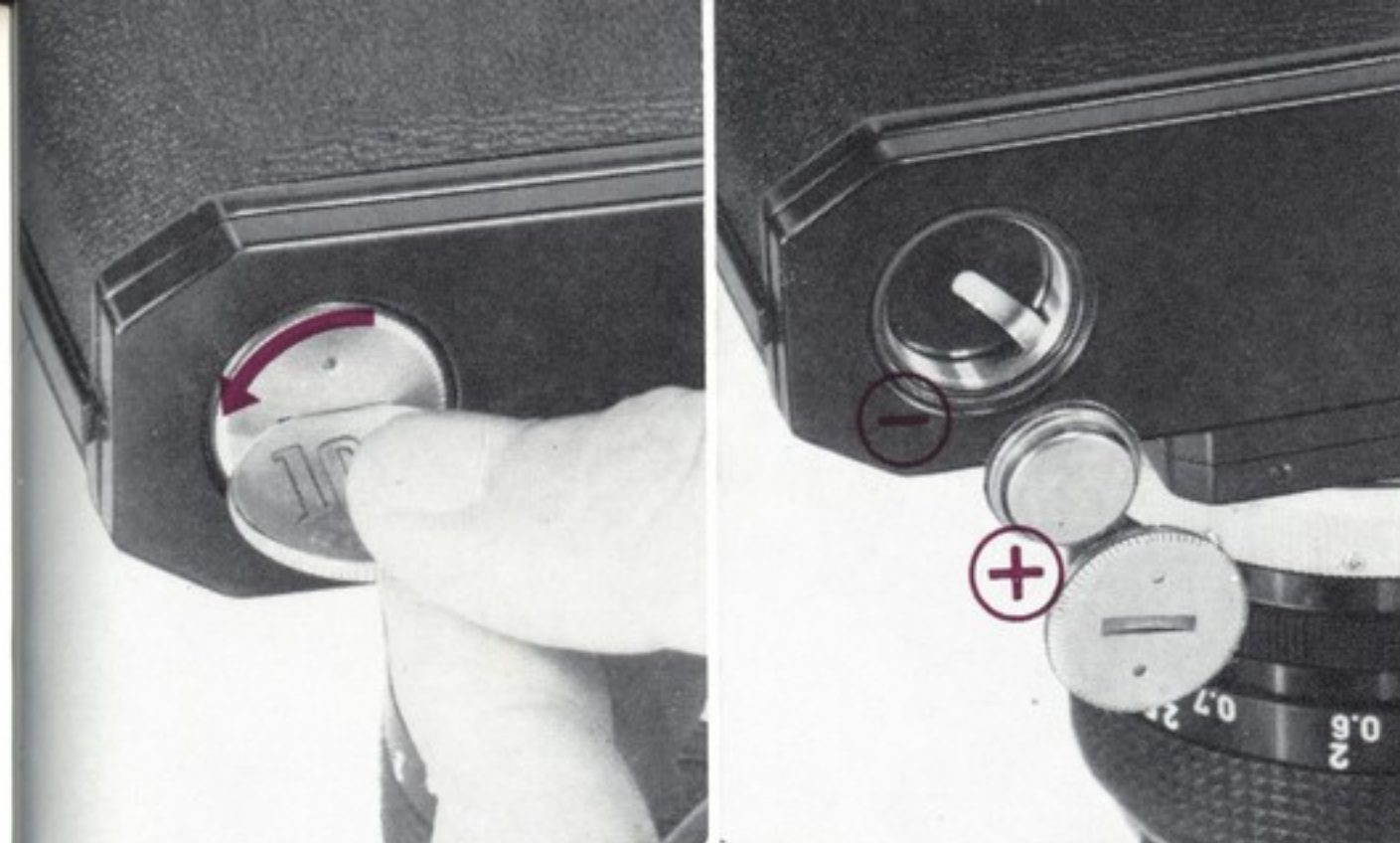
水銀電池を挿入したときには、必ず電圧をチェックしてください。また長期間使用しなかった電池も確かめ、電圧不十分の場合は交換してください。

- 1 シャッターダイアルの感度目盛を ASA100 にセットし、シャッタースピードを 2000 に合わせます。

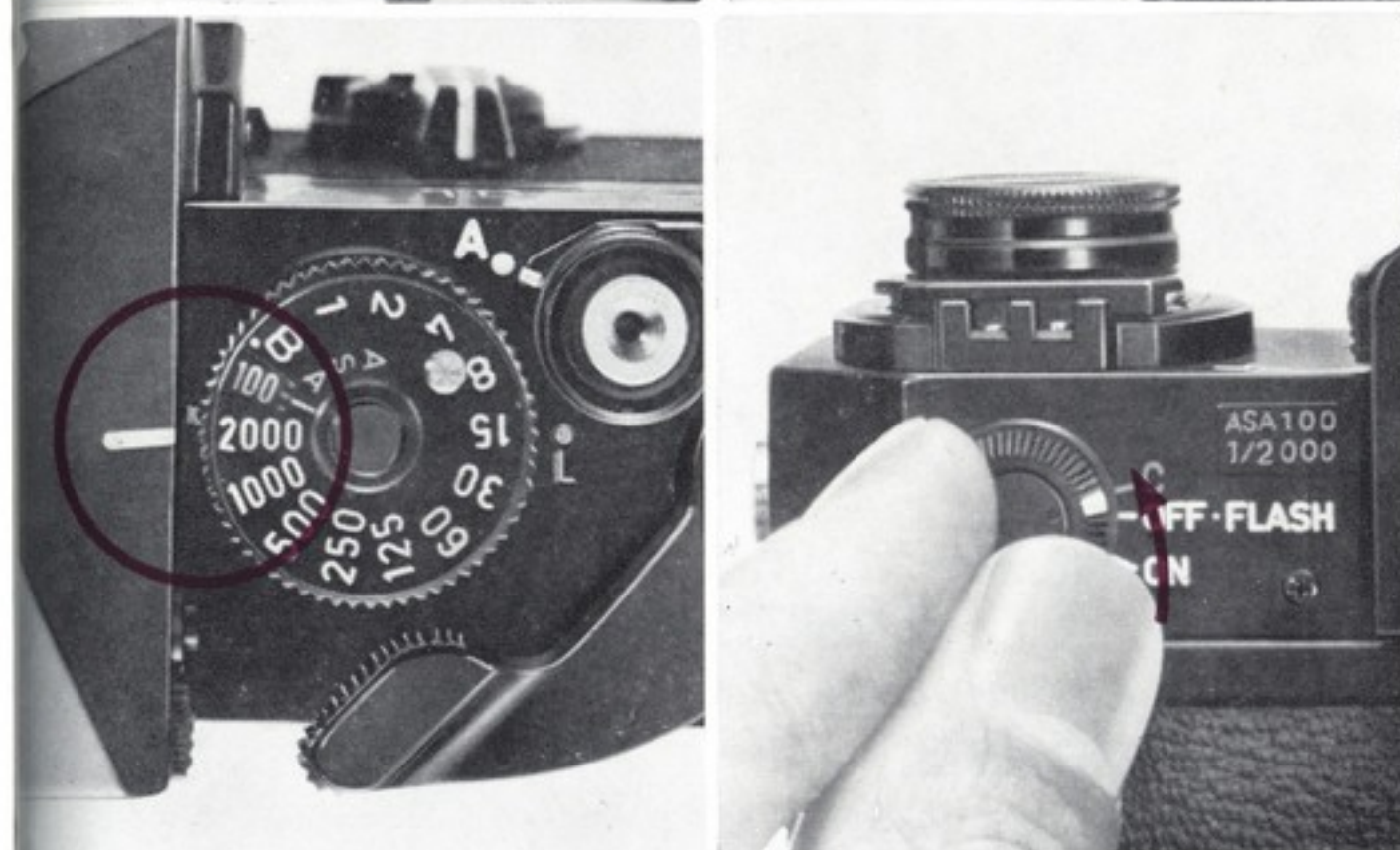
感度の合わせ方は、シャッターダイアル周辺のリングを持上げて回します(30 頁参照)。

●これ以外の目盛では正しいチェックができません。

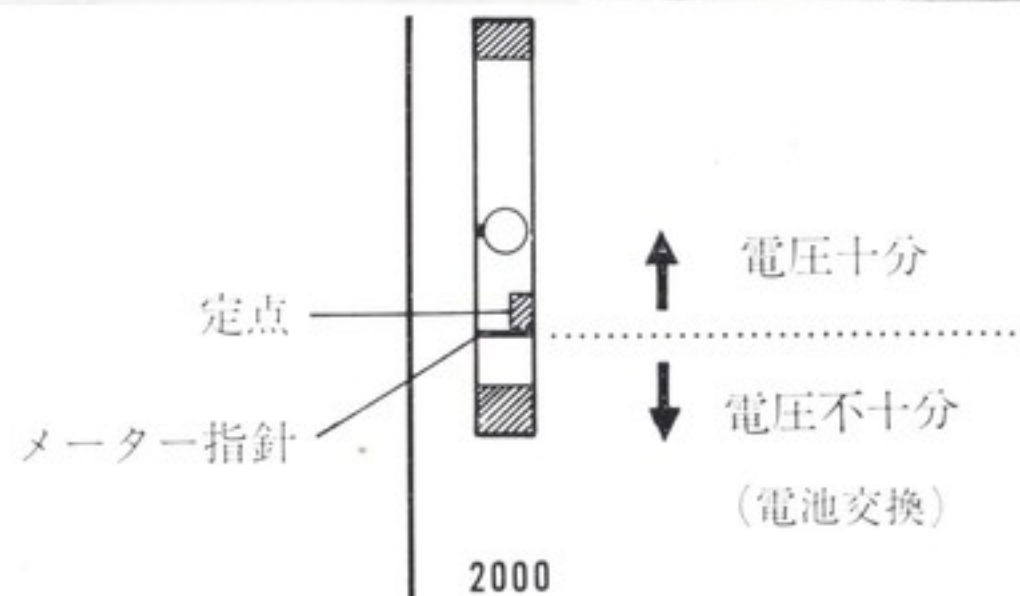
- 2 巻戻し部背面のメータースイッチを C に回します。
- 3 このときファインダー内のメーター指針が定点指標内に振れば電圧は十分です。指針が定点まで振れない場合は電圧不十分ですから新しい電池と交換してください。
- 4 カメラを使用するときには、スイッチを ON にセットしてください。



1 | 2



1 | 2



フィルムの 巻上げ操作

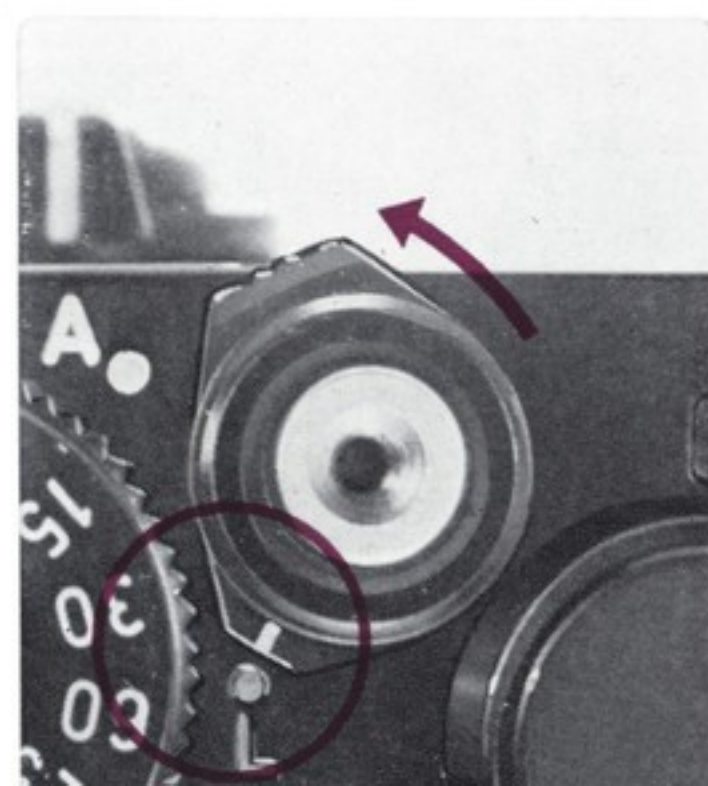
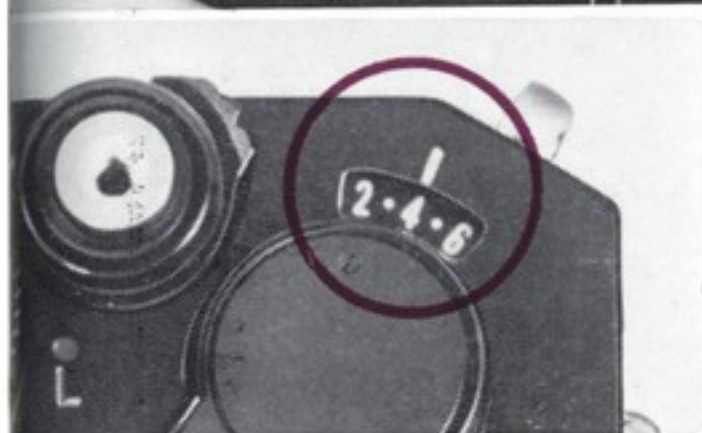
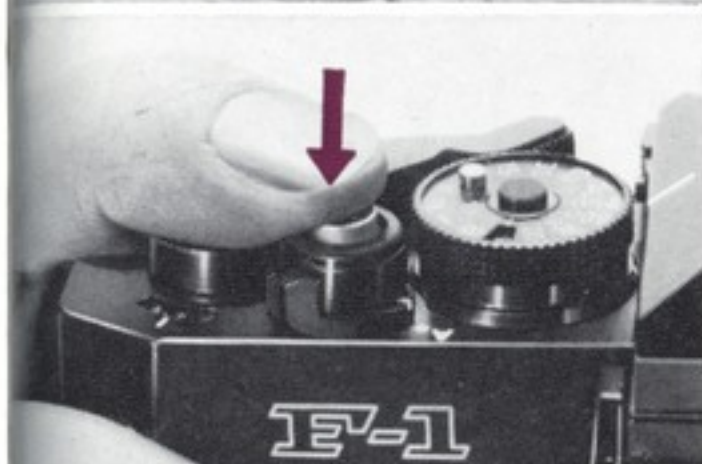
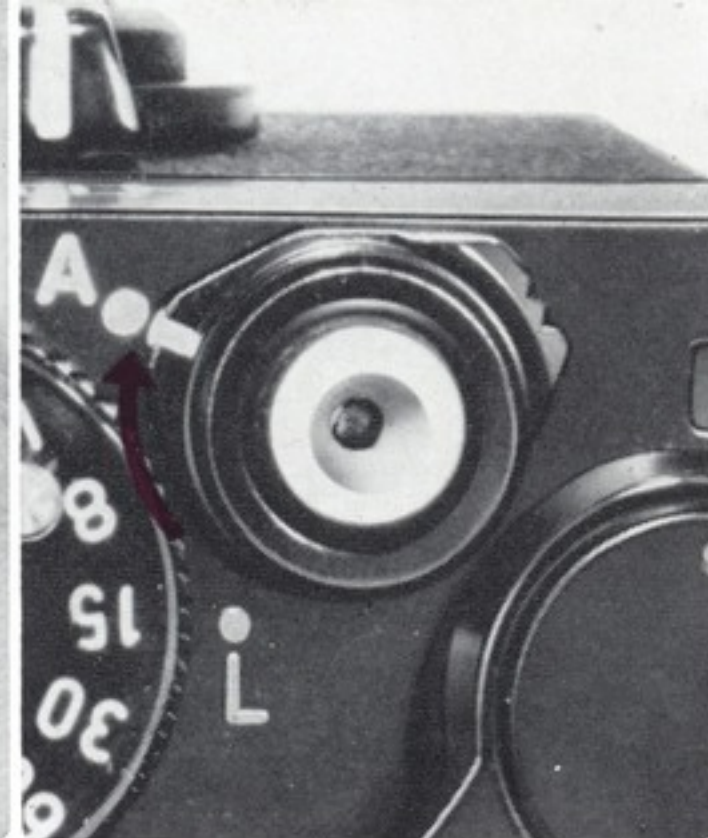
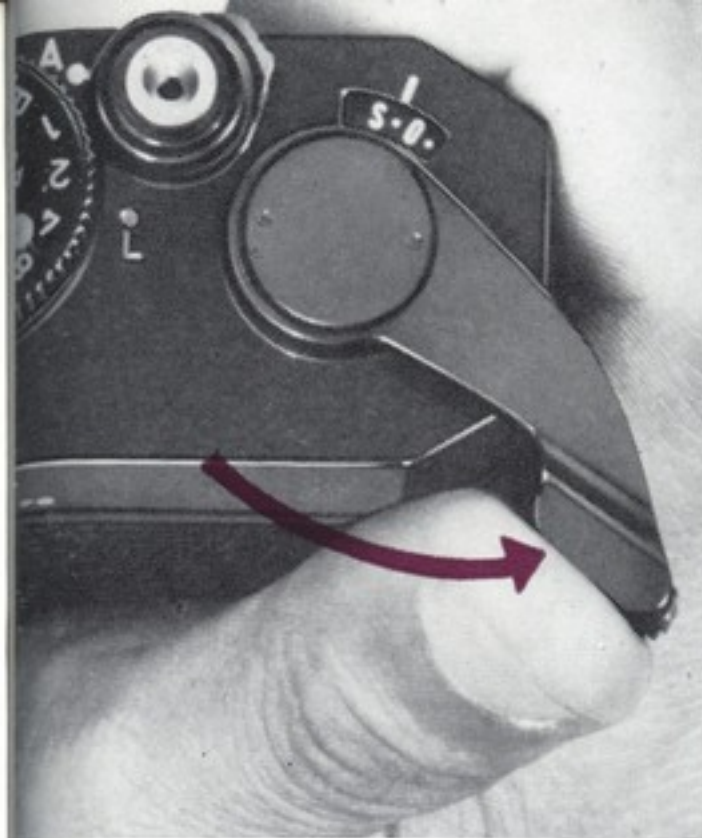
- 巻上げとシャッターボタン**
- 1 巻上げレバーは、シャッターとフィルムの巻上げおよび絞りとミラーの作動チャージなど、内部機構の巻上げを一度に行うものです。
 - 2 巻上げの前にシャッターボタンの安全ロックを回し、指標を A 位置に合わせてください。
 - 3 巻上げレバーを完全に止まるまで回すとフィルムが 1 コマ分送られて、シャッターがチャージされます。同時にフィルムカウンターも 1 目盛進みます。
 - 4 シャッターボタンを押すと、ミラーがはね上り、同時にプリセット位置までレンズが絞られ、シャッターが作動します。作動後は、ミラー、絞りとともに元に戻ります。
 - 5 巻上げレバーは、シャッターの作動後、直ちに巻上げできる状態になります。
 - 6 巻上げが完全でないと、シャッターボタンを押してもシャッターが作動しません。その場合には、もう一度巻上げを確かめてください。
 - 7 巻上げは、レバーを小刻みに繰り返して操作してもできます。

撮影枚数表示

レバーを 1 回巻上げるごとにフィルムカウンター目盛が 1 目盛進み、フィルムの撮影枚数を知らせます。目盛は裏蓋を開くと自動的にスタートマーク S まで戻ります。

シャッターの安全装置

シャッターボタンの安全ロックを回し、指標を L の位置に合わせてると、巻上げ後シャッターボタンが動かぬように固定されます。巻上げたままの携行またはバッグ内に収納するときご利用ください。



1 | 2
—|—
4

ケーブルリリースの取付け

シャッターボタンには、ケーブルリリースをねじ込んで取付けできます。ケーブルリリースは長時間露出や、望遠撮影で、三脚にカメラを取付けた場合にご利用ください。また複写などのさいにも大変役立ちます。ケーブルリリースを使用する場合には、安全ロックレバーがL位置にあってもシャッターが作動し、巻上げもできます。



シャッター と絞り

シャッターと絞りの調節

シャッターを開いてフィルムに光を与えることを露出または露光といいます。シャッターと絞りは、この露出の調節をするもので、シャッターは露出時間の調節を行い、絞りは光の量を調節します。

F-1 では追針式 TTL メーターを内蔵しており、開放測光により、簡単に適正露出が得られるようになっています。

シャッターダイヤル

シャッタースピードを調節するもので、各目盛は各秒時の分母が表示されています。たとえば1000は1/1000秒、2は1/2秒です。これを回して必要な目盛を指標に合わせると、シャッターボタンを押したときに目的の露出時間が得られます。ただし2000とB目盛の間は回転できない構造になっています。シャッタースピードは、1段ごとに速度が2倍になる倍数系列となっています。

●Bはバルブ露出で、シャッターボタンを押している間シャッターが開いていますから、1秒以上の長時間露出に用います。

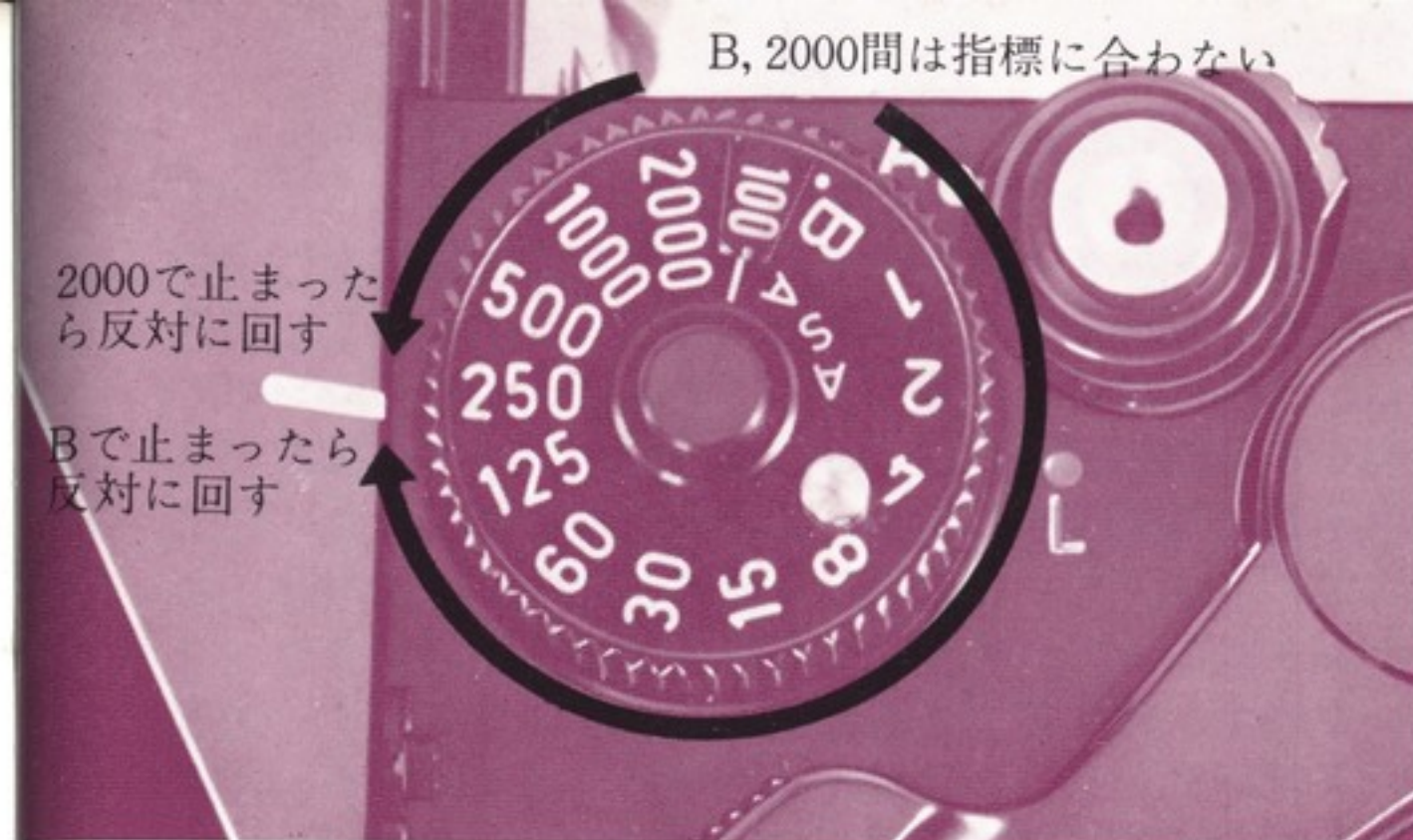
●極長時間のT(タイム)露出が必要なときには、Bにセットし、シャッターボタンを押したままシャッターの安全ロックを回して、指標をLに合わせてください。こうすると、指を離しても露出が続けられ、レバーをAに戻すとシャッターが閉じて露出が終了します。

●T露出はロック付きケーブルリリースを利用することによってもできます。

●プースターTファインダーを取付けると、TTL測光で長時間露出がきめられ、タイマーによって自動露出ができます。

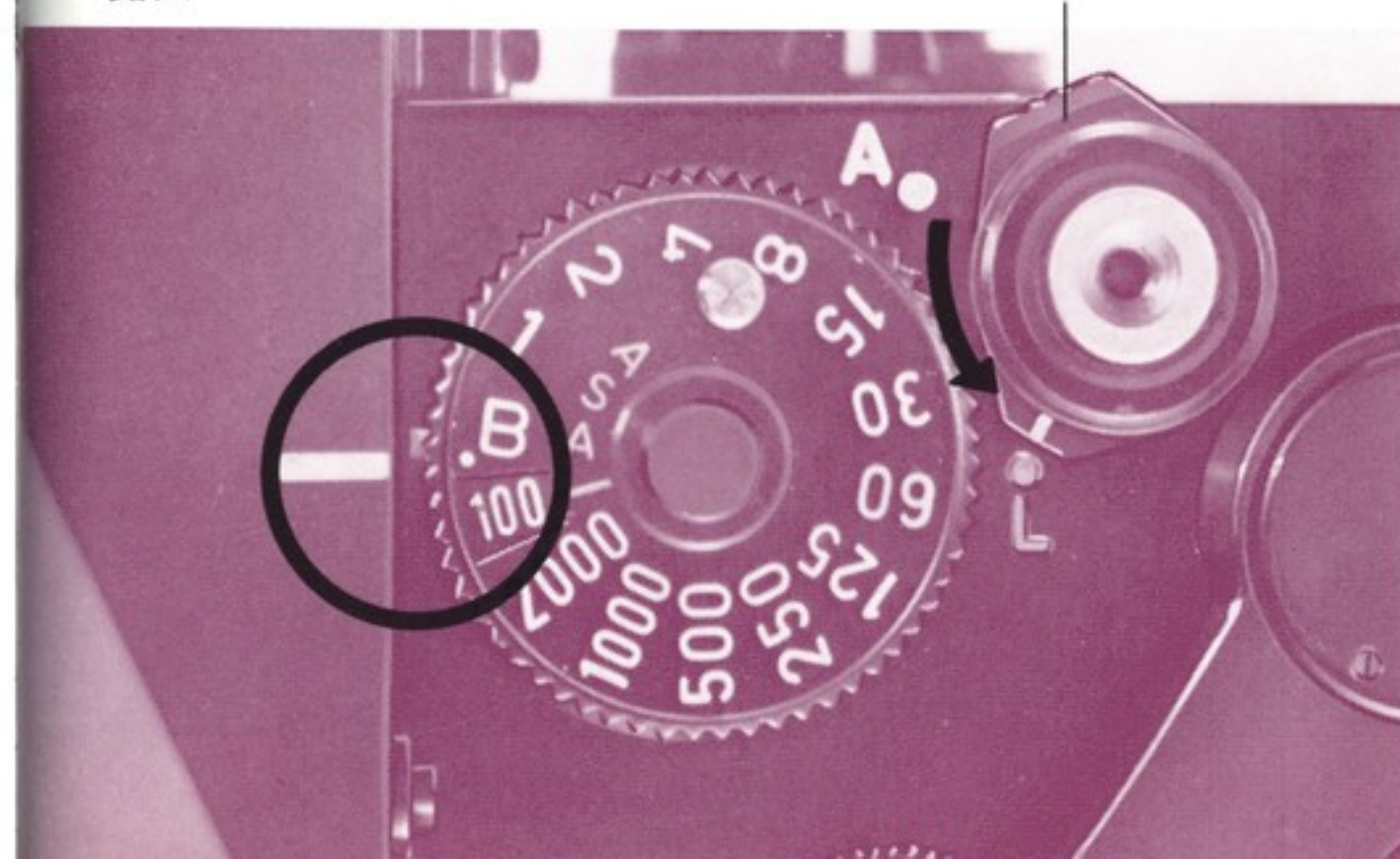
●60目盛はストロボの同調用です。シャッタースピードとしては1/60秒ですが、ストロボ使用時には実際には、ストロボの閃光時間だけのごく短い露出に相当します。

●各目盛のセットは、カチッと止まるクリックストップの位置で行ってください。とくにB目盛の場合は下の白点を合わせてください。



T露出

シャッターボタンを押したまま回す



レンズの絞り

絞りはシャッタースピードと組合せて適正露出を行うために用いられます。プリセット絞りリングを回して調節し、指標に合った目盛で明るさを読取ります。レンズの明るさ(開放公称値)は、この絞りの一番小さい数値の目盛をとって呼ばれており、目盛はその数値が大きくなるにつれて暗くなり、目盛の1段ごとに明るさが半分になるようになっています。したがって適正露出がきまっている場合、絞りを1目盛絞込んだときはシャッター速度を1段おそくし、2目盛絞込んだときはシャッター速度を2段おそくしてやれば、露光量は同じことになります。絞りは目盛の中間を用いることもできますから、FDレンズでは絞りリングの目盛の中間つまり半絞り位置にもクリックストップを設けて使い易くしてあります。

●レンズによっては最大口径の絞りとの間にだけ明るさが半分にならないものもあります。絞り目盛と露光量の比率はF2を規準として次の通りです。

絞り値	1.2	1.4	1.8	2	2.8	3.5	4	5.6	8	11	16	22
露光比	3	2	1-1/4	1	1/2	1/3	1/4	1/8	1/16	1/32	1/64	1/128

絞りのきめ方は TTL メーターにより簡単に行えます。絞りは明るさの制限だけでなく、ピントにも関係しますから、効果を十分に理解してご利用ください(60頁参照)。



自動絞り

FD レンズは、絞りをプリセットしてもつねに開放でファインダー視野が見られ、シャッターを切った瞬間だけプリセット絞りリング上にセットしてある絞り値まで、絞り羽根が絞込まれます。そしてシャッターが切れ終わると、再び全開して明るいファインダーに戻る自動絞りとなっています。

1 手動絞り

手動絞りは実際に絞込んだ場合のピント状態を確認するときや、接写、拡大撮影などの特殊撮影に使用します。FD レンズには、絞りリングが1つしかありませんが、ボディ前面の絞り込み用レバーをレンズ側に倒すと手動絞りの状態となり、プリセット絞りリングを回転させると、絞り羽根が開閉されます。

FTb, FT, ペリックス等にも同様に使用できます。

2 レンズとボディの間にアクセサリをはさんで撮影する場合には、普通は自動絞りが使えませんが、手動絞りに切換えます。セットのしかたは、レンズをはずし後部の自動絞りレバーを反時計方向に一杯に回してロックします。この状態でボディに取付けるとプリセット絞りリングの回転で羽根が開閉します。ロックを解除するには自動絞りレバーを少し押し気味に戻します。

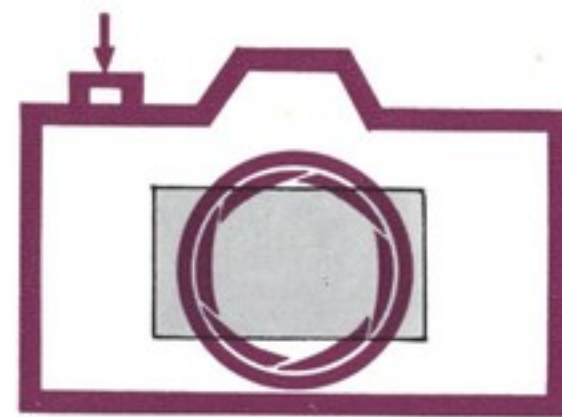
この手動ロックを利用すれば F-1, FTb, FT, ペリックス以前のキャノン一眼レフで手動絞り撮影が行えます。

3 手動絞りを使用する場合には、絞り込み測光操作で適正露出が得られます。

※レンズのくわしい取扱いは56頁を参照してください。



自動絞りレバー
の手動ロック



シャッターボタンを押す



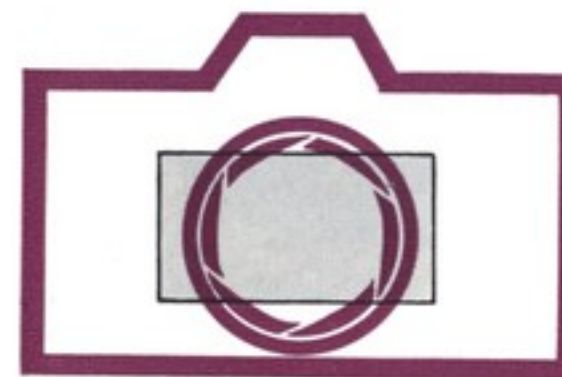
ミラーが上りはじめる



シャッターが開き
プリセット位置
まで絞られる



ミラーが上る



撮影完了



ミラー正位置に復帰

ピントの調節

ファインダーを覗きながら、レンズのフォーカシングリングを回します。

ファインダー視野中央の円型内の像が一致したときピントが合い、くずれたときピントがはずれます。

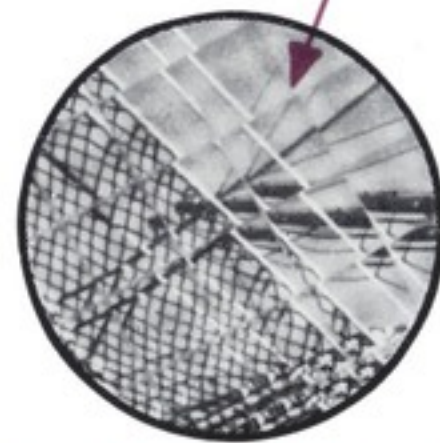
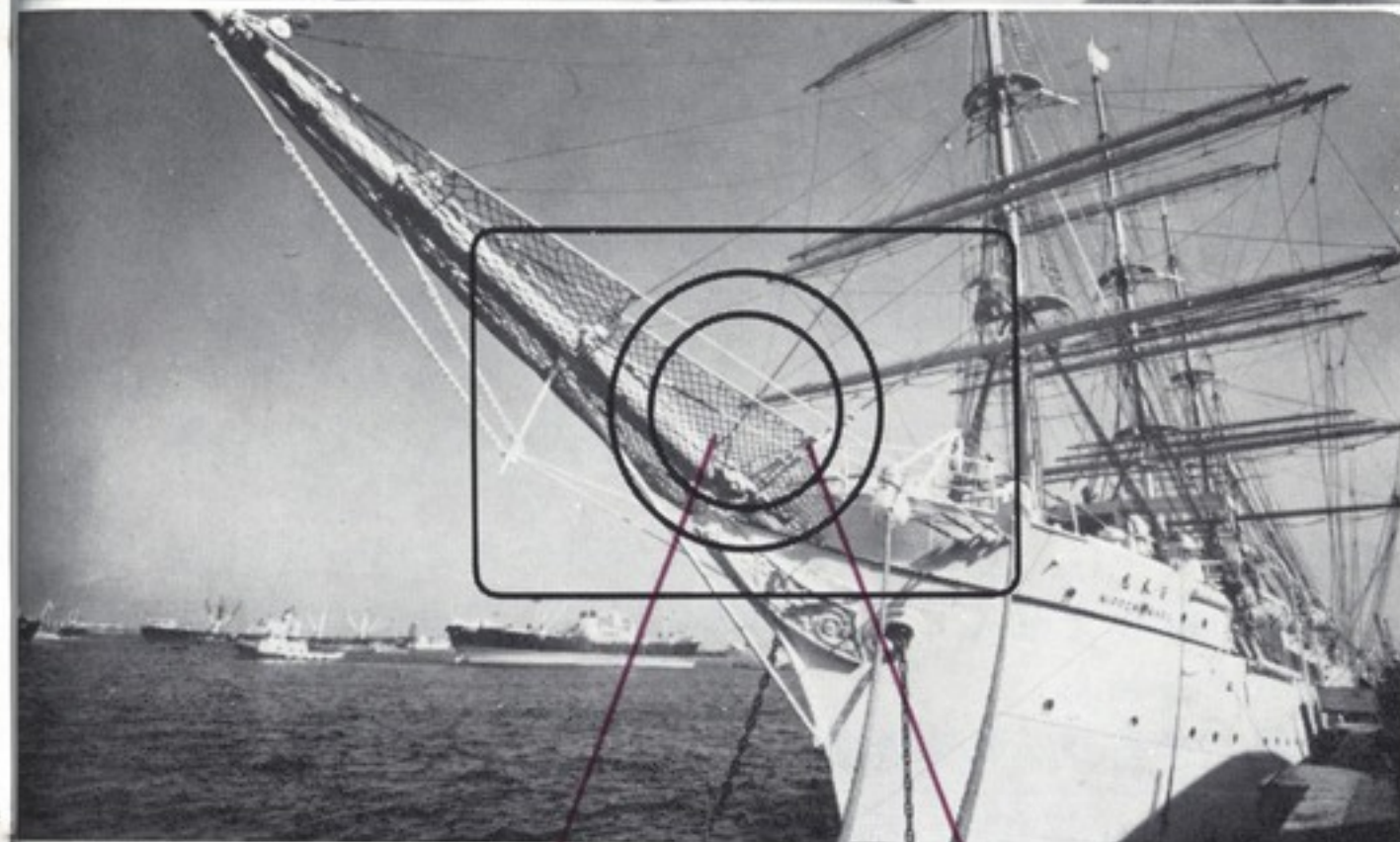
●視野中央の円型は、微細な特殊プリズムを合成した焦点調節スクリーンです。ピントが合っていないときは像が極端にくずれて見えます。ピントが合ったときは円型内の像と同一程度の距離にある被写体は、円型外の視野内でも同じく鮮明に見えます。

したがって平面的な被写体の場合には円型外のマットガラス面上でも、ピント合わせを行うことができます。

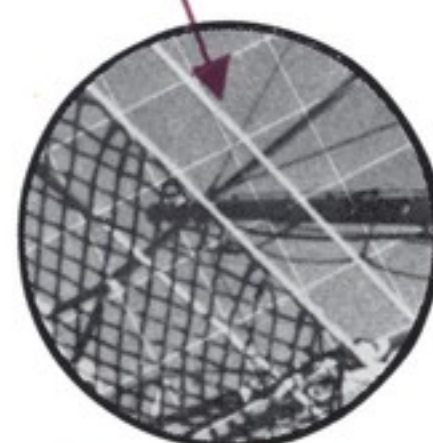
●光線の状態によっては、ファインダー下方に左右に走る円弧状の輝線が見えることがあります。これはミラーコンデンサーの接合面によるもので、撮影にはなんら支障ありません。むしろキャノン F-1 のすぐれた測光方式によるものをご理解ください。

●FD 55mm F 1.2 レンズ付きで三脚へ取付ける場合、レンズが大きくフォーカシングがしにくいいため、カメラホルダー F をご利用ください。

●F-1 ではファインダーおよびフォーカシングスクリーンが交換できます (40頁参照)。



ピントがはずれている



ピントが合っている

露出の きめ方

TTL メーターの使い方

キヤノン F-1 は、FD レンズとの組合わせでシャッター
スピード、フィルム感度および絞りリングに連動する追
針式の TTL 開放測光機構をもっており、FT 同様焦点面
に最も近い位置に CdS を配置してあるため、きわめて
正確な露出決定ができます。なお、レンズの開放 F 値補
正を自動的に行う機構を組込んであるため、どの明るさ
の FD レンズを使用しても操作は変わりません。

また F-1 に FL レンズを取付けた場合には、FT 同様、
絞込み測光が可能です。

露出のきめ方にはシャッターを先に選ぶ場合と、絞りを
先に選ぶ場合の 2 通りありますが、いずれにも慣れるこ
とが、よい写真を写すために必要なことです。

その準備 (フィルム感度のセット)

使用フィルムの ASA 感度を小窓に出します。それには
シャッターダイヤル周囲の感度セットリングをつまみ、
持上げてから回します。フィルムが SS 級なら ASA の
小窓に 100 を出し、リングを落とし込んでセットしま
す。

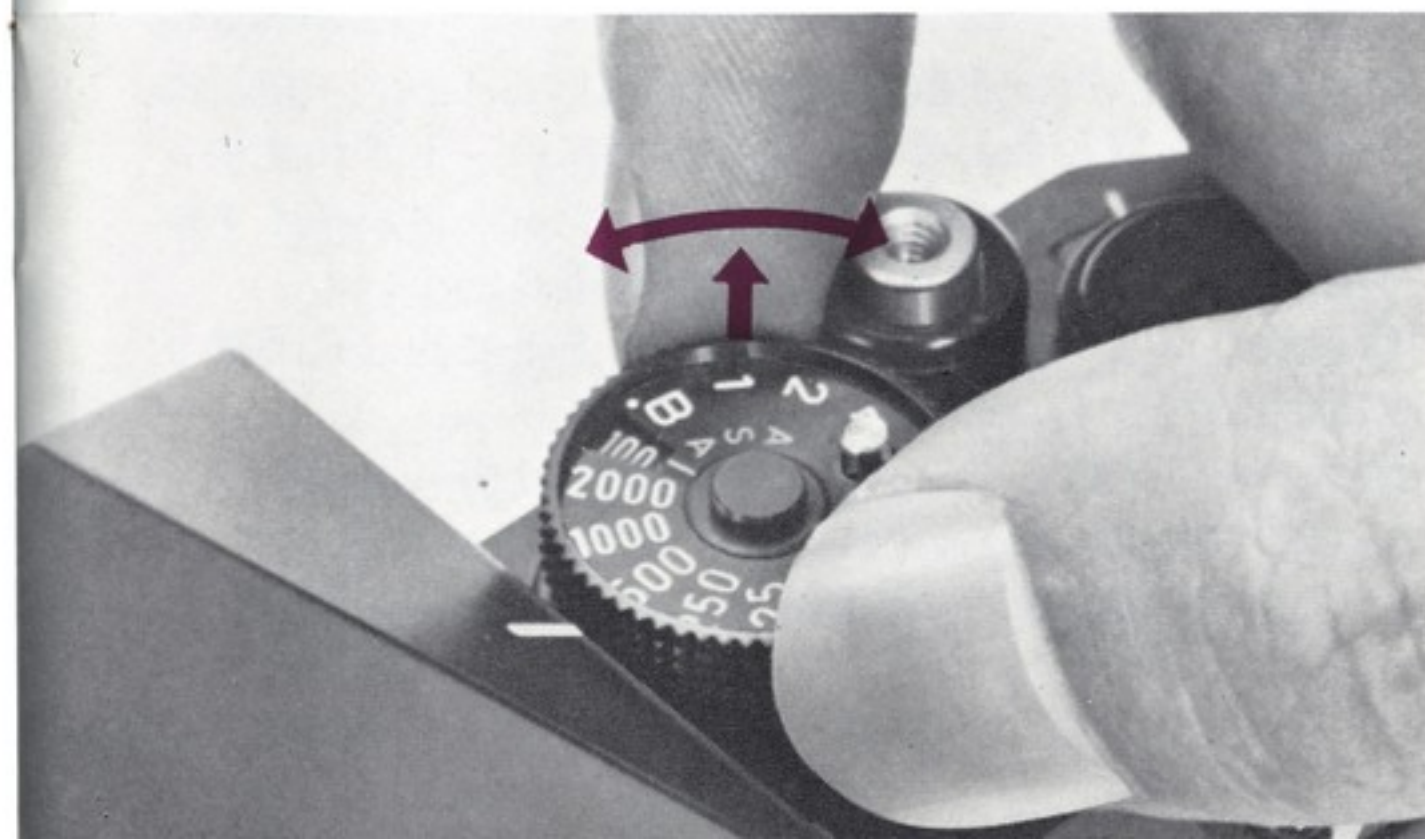
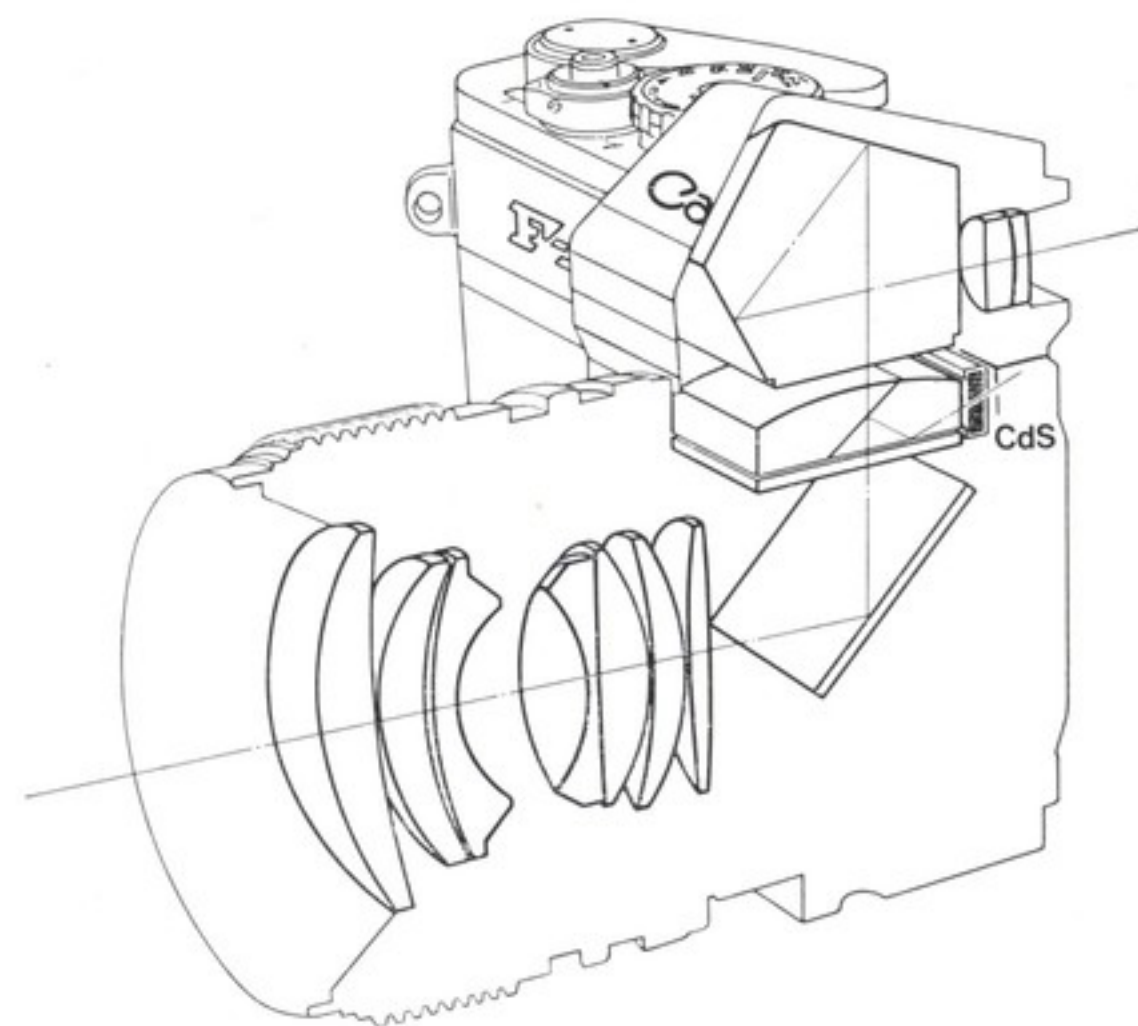
●感度セットは、小窓に ASA 25 が出たときは、それ以
上左へ回せません。逆に 2000 (・) が出たときは右
へ回せません。

●使用できるフィルム感度

(32)	(40)	(64)	(80)	(125)	(160)	(250)	(320)	(500)	(640)	(1000)	(1250)	(2000)							
ASA 25	・ 50	・ 100	・ 200	・ 400	・ 800	・ 1600													
(DIN) 15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34

上記カッコ内の数字は中間の点に相当する感度です。

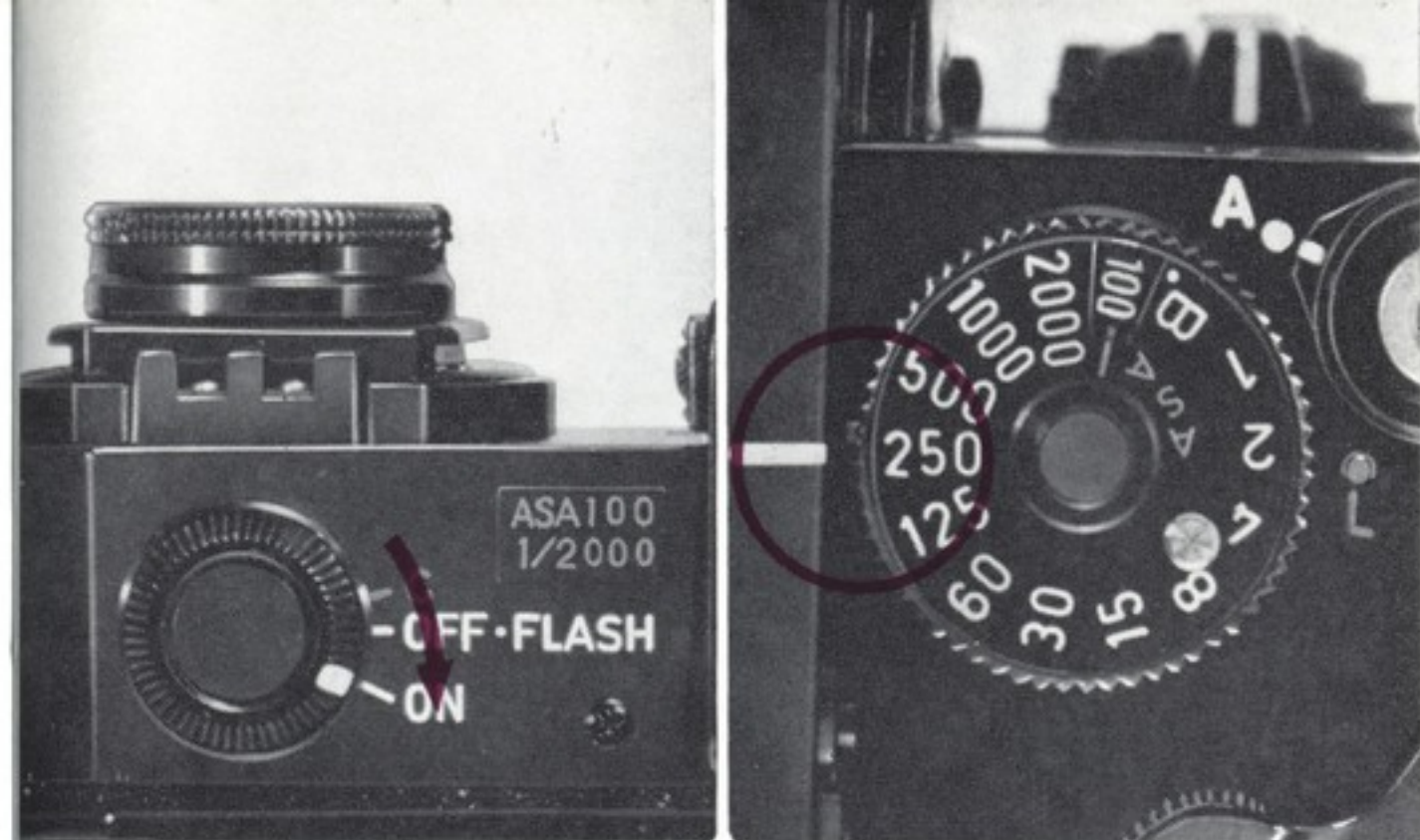
●フィルムの感度は光に感ずる速さで、フィルムの外装
箱か説明書に明示されています。



開放測光

絞り信号ピンのある FD レンズを取付けた場合、開放測光ができます。開放測光とは、プリセット絞りリングをセットするだけで測光する方法です。この場合、絞り羽根が開いたままですから、ファインダーは暗くなりません。

- 1 メータースイッチを ON にします。
- 2 シャッタースピードをきめます。室内は 30~60, 曇天 戸外 125, 晴天 250 以上 (ASA 100) が適当です。
- 3 ファインダーを覗き、カメラを被写体に向けピントを合わせます。
- 4 中央長方形部が測光する範囲です。被写体の主要部に向けてください。この部分がメーター受光部と同一面積になっており、この範囲に被写体の中心となる部分を入れて測る方式です。したがって従来のメーターでは困難な逆光時の露出決定も容易で、撮影者の意図を盛込んだ露出がきめられます。
- 5 右側のメーター情報窓の指針を確かめます。
プリセット絞りリングを回して、メーター指針に追針を重ね合わせます。これで適正露出にセットされます。
●メーター窓には指針が 2 つあり、メーター指針は ASA 感度とシャッタースピードに連動し、また被写体の明るさに応じて上下します。
丸の追針は、FD レンズのプリセット絞りリングに連動します。したがって、シャッタースピードを先にきめた場合には、プリセット絞りリングを回してメーター指針に追針の丸を重ね合わせると適正露出にセットされます。
- 6 逆に絞り値を先にきめた場合には、シャッターダイヤルを回して追針の丸にメーター指針を重ねます。
●追針の丸は中央が適正露出です。上下は約 ± 0.5 絞りの範囲になっています。
●プリセット絞りリング上の緑色丸印はサーボ EE ファインダー用ですから、それ以外に使用しないでください。
- 7 プリセット絞りリングを回しても重ならないときは、シ



ャッタースピードが適切でない場合です。シャッターダイヤルを回して重ねてください。

- 8 追針のメーター情報窓での移動範囲は、使用レンズの開放 F ナンバーによって変り、メーター情報窓の上下一杯に動くとは限りません。追切れない場合は、シャッタースピードを変えてください。メーター指針が上に振り切れている場合はシャッタースピードを速くし、メーター指針が下に振り切れている場合は、シャッタースピードを遅くしてください。

9 シャッタースピードを高速側にセットするとメーター指針が下へ移動し、遅くすると上へ移動します。シャッタースピードがメーター連動範囲外のスロースピード (ASA 100 の場合 1/2 秒以下) にセットされると、指針が適正範囲外に逃げメーター情報窓全体が赤くなって警告します。この条件下では絞りを変えても測光できません。フラッシュ撮影に切換えるか、高感度フィルムの使用、またはブースターで測光することになります。

●シャッタースピードを連動範囲内の高速側に戻すと情報窓は白に戻ります。

10 メーターを使用しないときには、水銀電池の消耗を防ぐためスイッチを OFF にしてください。万一切り忘れても電流消費量はわずかですから余り心配にはなりません。

●B は 1 秒以上の長時間露出用ですから、カメラ内の露出計では測光できません。

●逆光時には必ずレンズフードをご使用ください。

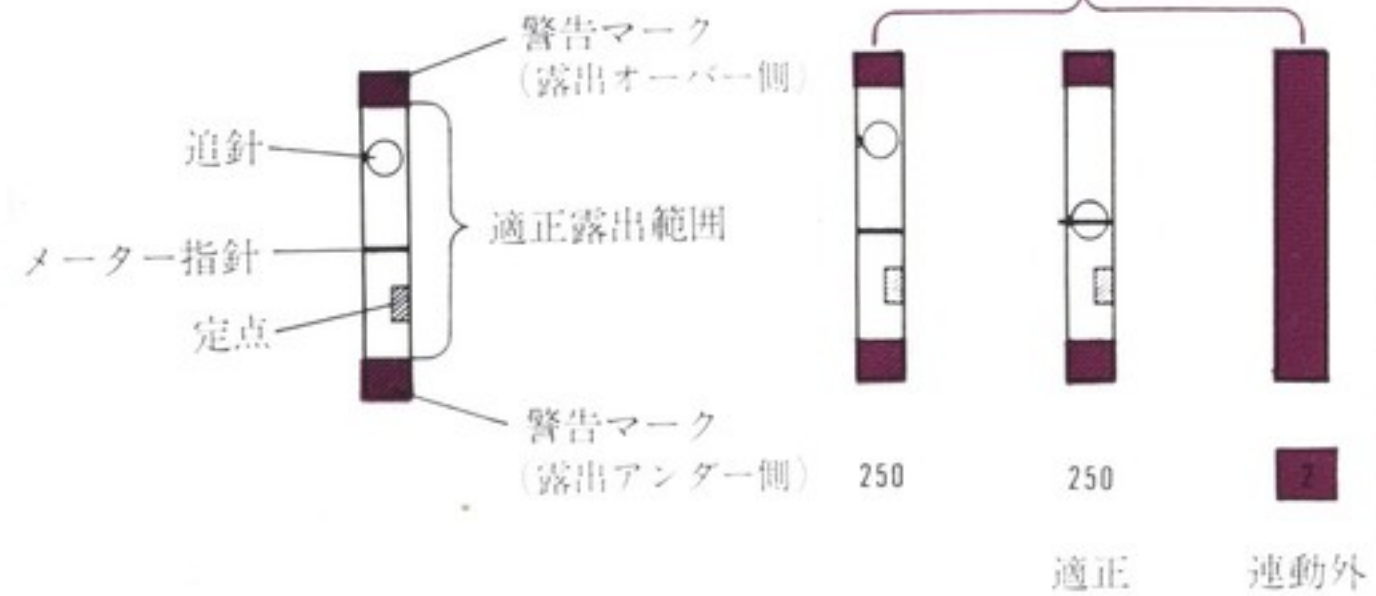
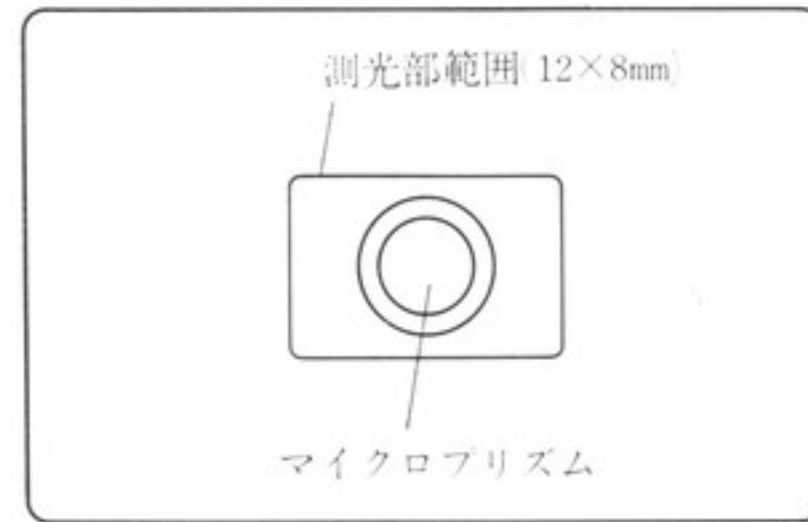
●メーター使用中、明るさの変化によって針の動きが鈍る場合もありますが、CdS の特性によるものですから心配ありません。

メーター連動範囲

ASA	使用できるシャッタースピード											
25	1	2	4	8	15	30	60	125	250	500	1000	2000
50	2	4	8	15	30	60	125	250	500	1000	2000	
100	4	8	15	30	60	125	250	500	1000	2000		
200	8	15	30	60	125	250	500	1000	2000			
400	15	30	60	126	250	500	1000	2000				
800	30	60	125	250	500	1000	2000					
1600	60	125	250	500	1000	2000						
	22	22	22	22	22	22	22	22	16	11	8	5.6
	← 使用できる最小絞り →											

①読み方は ASA 100 のフィルムを使用した場合 ASA 100 の欄を横に見ます。シャッタースピードは 1/4 から 1/2000 までメーターに連動することがわかります。

②各シャッタースピードに対する絞りは、開放絞り値から上表下段に記載されている最小絞り値まで、連動して使用できます。



絞込み測光

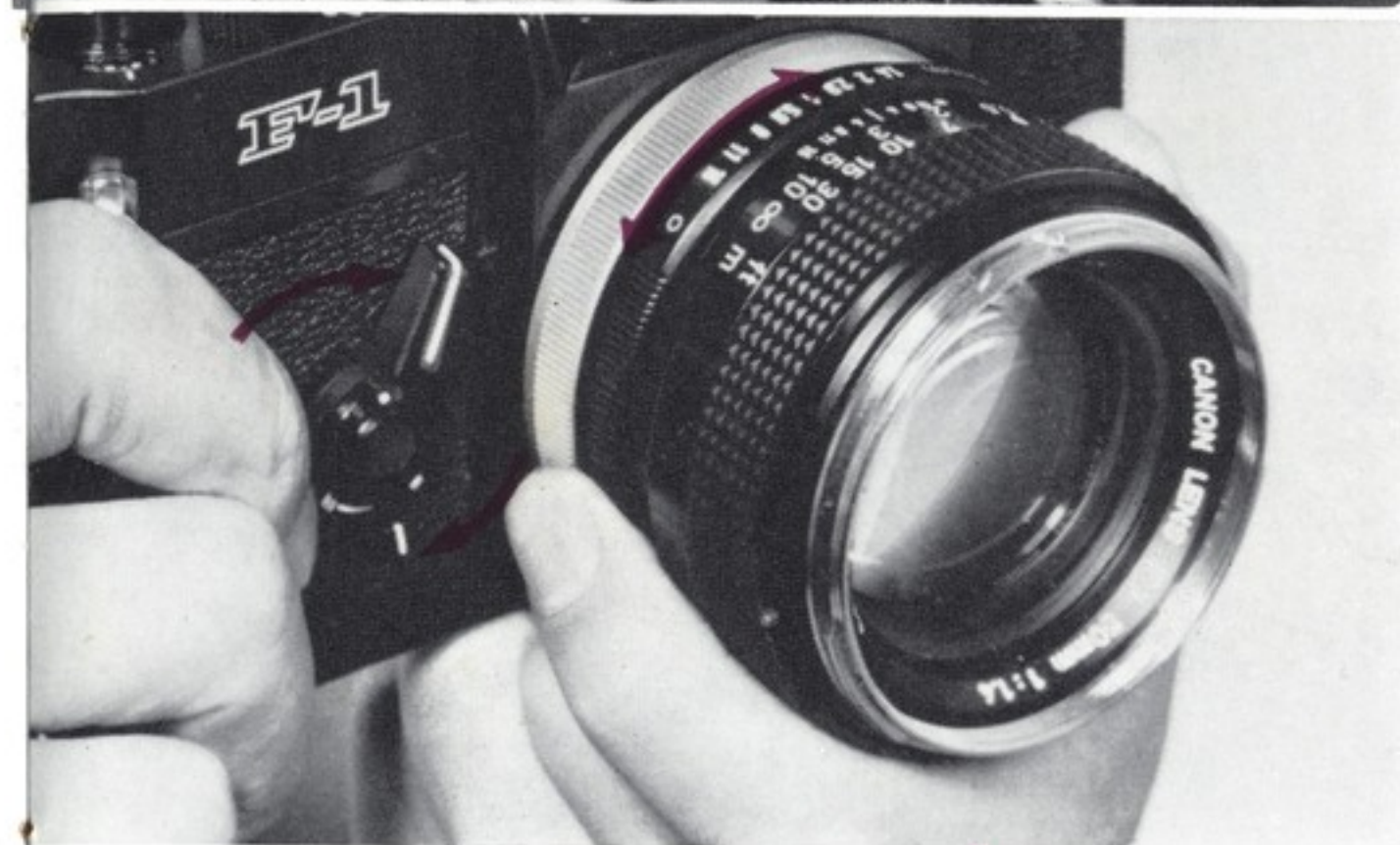
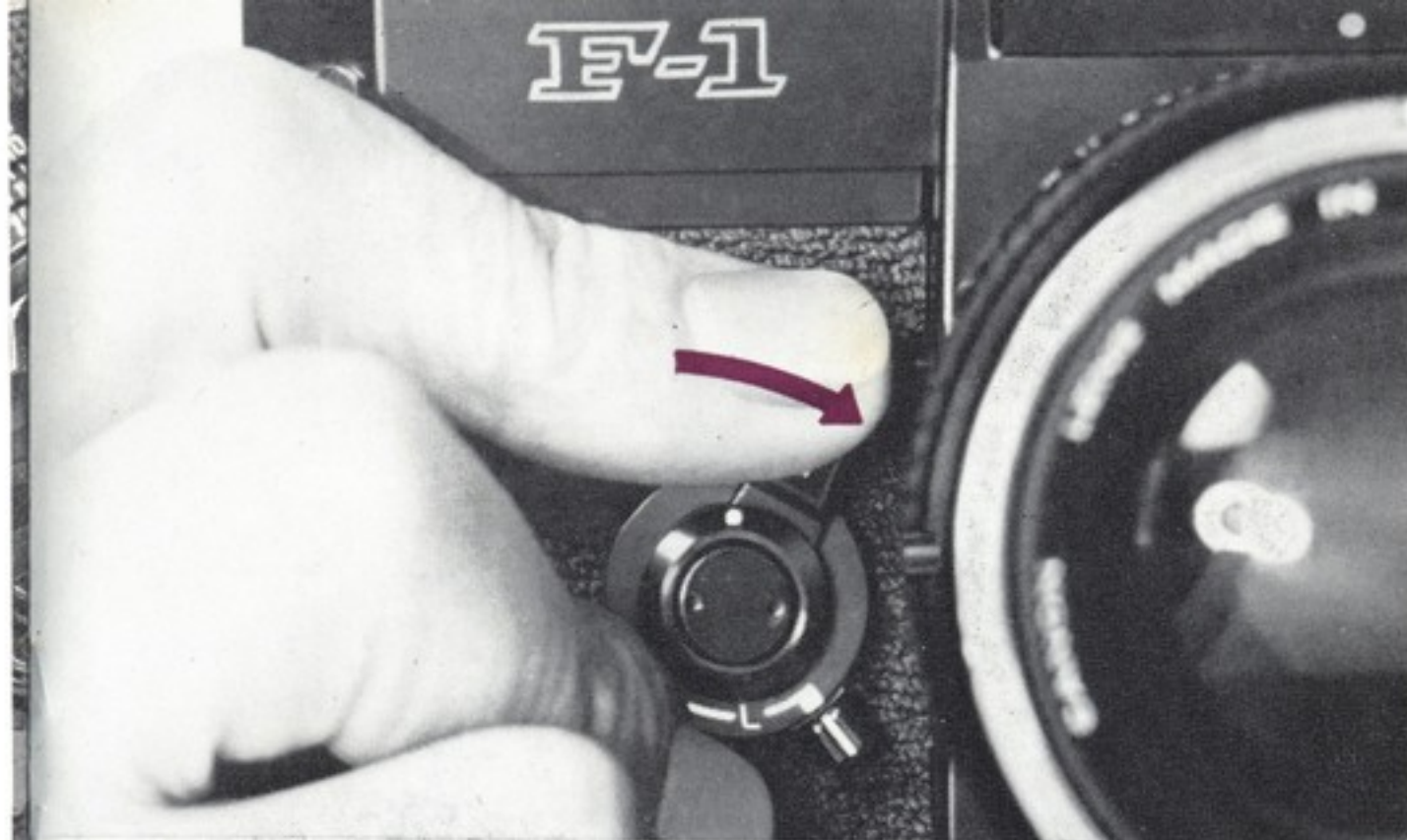
開放測光信号のない FL レンズを取付けた場合には絞込み測光を使います。絞込み測光とは絞り羽根を実際に絞込んだ状態、つまり撮影時同様の光線状態で測光する方法です。絞込み測光への切換えは、絞込み測光レバーを倒して行います。

絞込み測光

- 1 シャッタースピードをセットします。
- 2 カメラを被写体に向けてファインダーを覗き、ピントを合わせます。
- 3 絞込み測光レバーを倒して絞込みます。この場合追針は下の警報マーク側に逃げメーター指針のみ残ります。
●レバーはストップするまで十分に押してください。
- 4 そのままプリセット絞りリングを回して、ファインダー内の定点にメーター指針を入れると、絞りは適正露出にセットされます。
●定点は中央が適正露出です。上下は約±0.5絞りの範囲になっています。
- 5 絞りを先にきめた場合には、シャッターダイヤルを回して調節します。その場合、シャッターダイヤルのクリックストップに必ず入れてください。

絞込み測光レバーとそのロック

レバーを倒すとプリセット位置まで絞りが閉じ、レバーから手を離すとレバーが戻り、絞りも開放に戻ります。ロックレバーをL位置にしておくと、レバーを倒したさい絞りが手動にロックされ、絞込み測光レバーから手を離しても、絞り羽根が戻りませんから操作が楽になります。また測光レバーをロックしたままシャッターを切ることもできますから、測光後も開放に戻さず、そのままシャッターを切ってください。ピントも確かめられその上ショックが少なく速写性も増します。ロックレバーを元の位置に戻せば絞込みは解除されます。



●メーター指針が定点より上方にあり、絞りを絞っても定点に合い切れない場合には、シャッタースピードを速くしてください。

●メーター指針が定点より下方にあり、絞りを開いても合い切れない場合には、シャッタースピードを遅くします。

●メーター情報窓が赤変したらメーター連動範囲外ですから、フラッシュを使用するかブースター測光に切換えてください。

FD レンズと F-1 の組み合わせでは、開放測光で正しい露出が得られます。

FL レンズと F-1 の組み合わせでは、絞込み測光で正しい露出が得られます。

FD レンズには、開放 F 値補正信号があり、絞り開放のときに正確な露出を与えるようメーターを補正してあるため、原則として開放測光をおすすめします。

●広い室内や舞台撮影のように手元に照明がとれない場合には、ファインダー内メーター情報が見にくくなりますから簡単な照明具をご用意ください。



ファインダーの交換

ペンタプリズムは取りはずして他のファインダーとの交換使用が可能です。はずし方は、ペンタ部側面にある2つの着脱ボタンを押して後方へ引抜きます。

取付けは、ファインダーの取付けレールが平らに入るよう後方からすべり込ませ、止まるまで押付けます。パチッと音がしてロックされます。

交換ファインダーには、ブースターTファインダー、サーボEEファインダー、スピードファインダー、ウエストレベルファインダー等があります。

フォーカシングスクリーンの交換

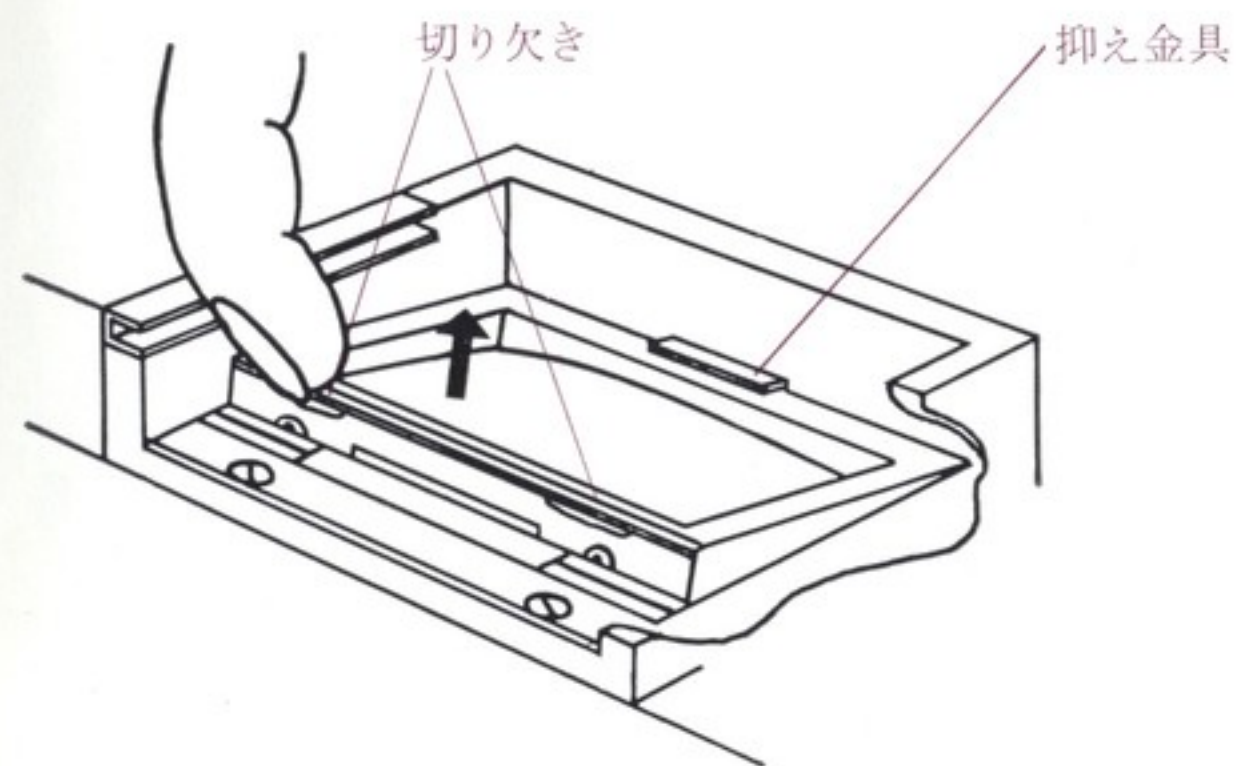
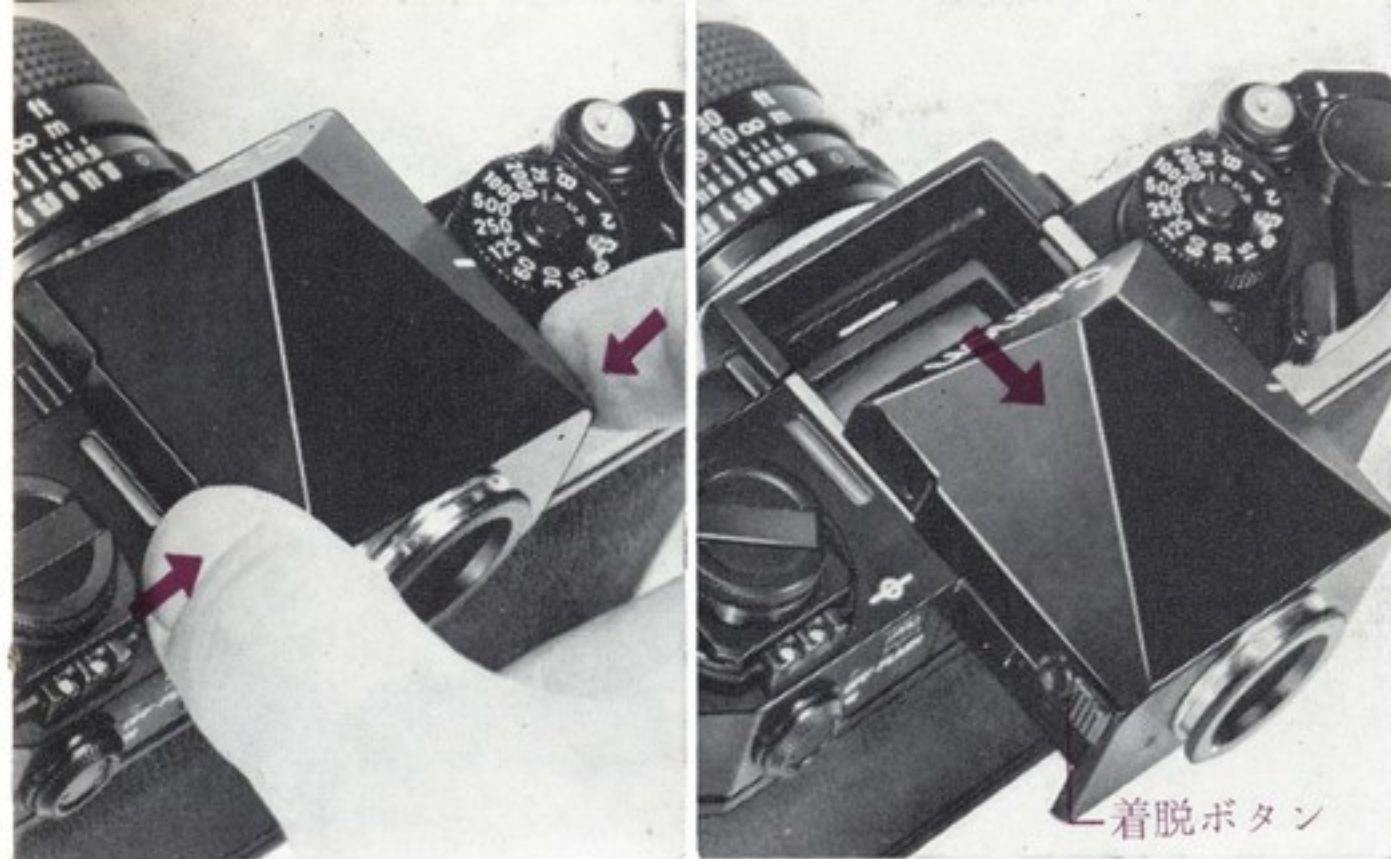
ファインダーボックス内にあるフォーカシングスクリーンも交換可能です。標準はマイクロプリズムスクリーン距離計付きですが、他にスプリットイメージ距離計付き、全面マットおよび方眼付きの3種が用意されており、好みや用途によって使い分けできます。

交換のしかた

ファインダー室内のフォーカシングスクリーン後方にある2か所の切欠きに爪先を入れ、上方に持ち上げると簡単に浮上りますから、金具の端をつまんで取出します。入れるときは突起をレンズ側に向け、ミラーボックス内の抑え金具の下にさし込んでから後部を押下げ、平らに落とし込みます。

●フィルムが入っている場合、ファインダー類の交換は直射光下を避け、素早く行ってください。

●フォーカシングスクリーンのレンズ部には手を触れないでください。埃が付いた場合は、ゴム球付きのブロワーで吹飛ばすか、柔かい刷毛で軽く払うようにしてください。



●ファインダー接眼部には、標準リング（-1.2 ジオプター）のほか視度補正レンズが7種用意されておりますから、交換すれば近視や遠視眼の方も眼鏡なしで鮮明な被写体を見ることができます。

はずし方はリングを左回しに回します。

種類 +3 +2 +1 0 -2 -3 -4 ジオプター
遠視側 近視側



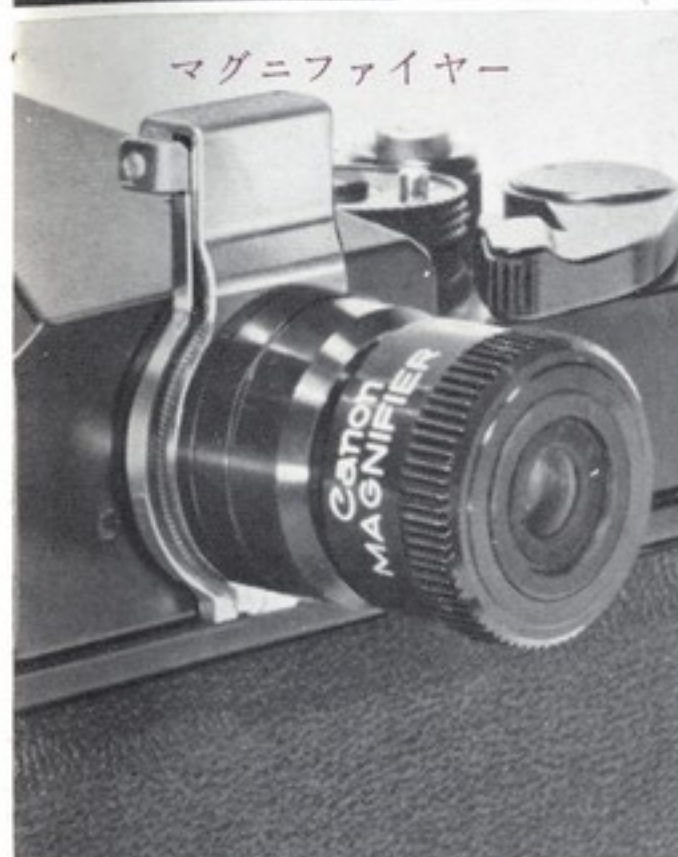
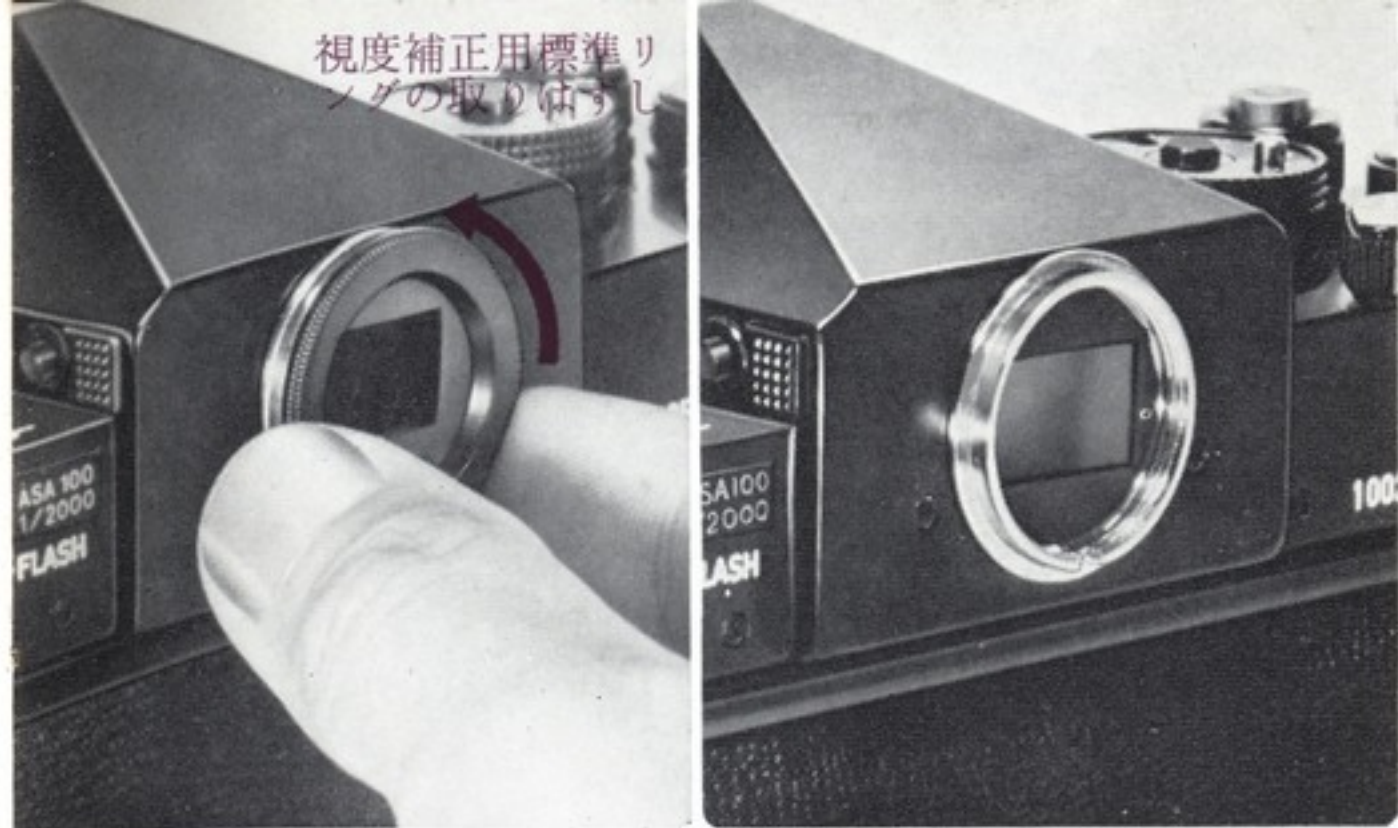
●ピントを拡大観察できるマグニファイヤーが視度補正レンズのリングによって取付けできます。

マグニファイヤーは、ファインダー接眼部に取付けたまま上方にはね上げると直ちに全視野が観察できます。

●接眼部にはアングルファインダーBが取付けられますが、この場合もプリズムにより左右上下正像に見えます。上から覗けますから複写、拡大、顕微鏡写真撮影などに用いると有利です。

●アイカップがリング部にかぶせ式で取付けできます。

視度補正用標準
リングの取りはずし



マグニファイヤー



マグニファイヤーのはね上げ



アングル
ファインダーB

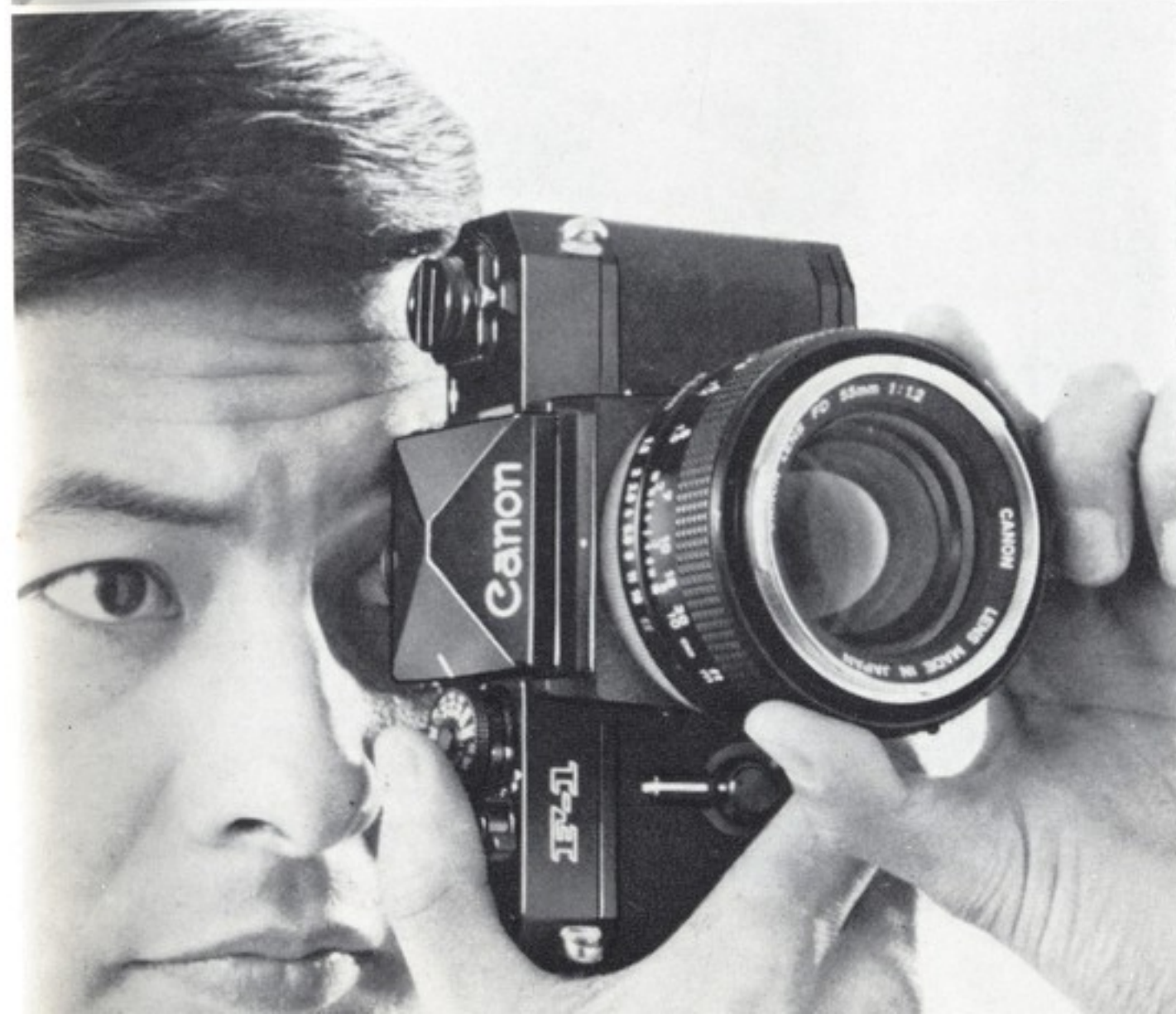
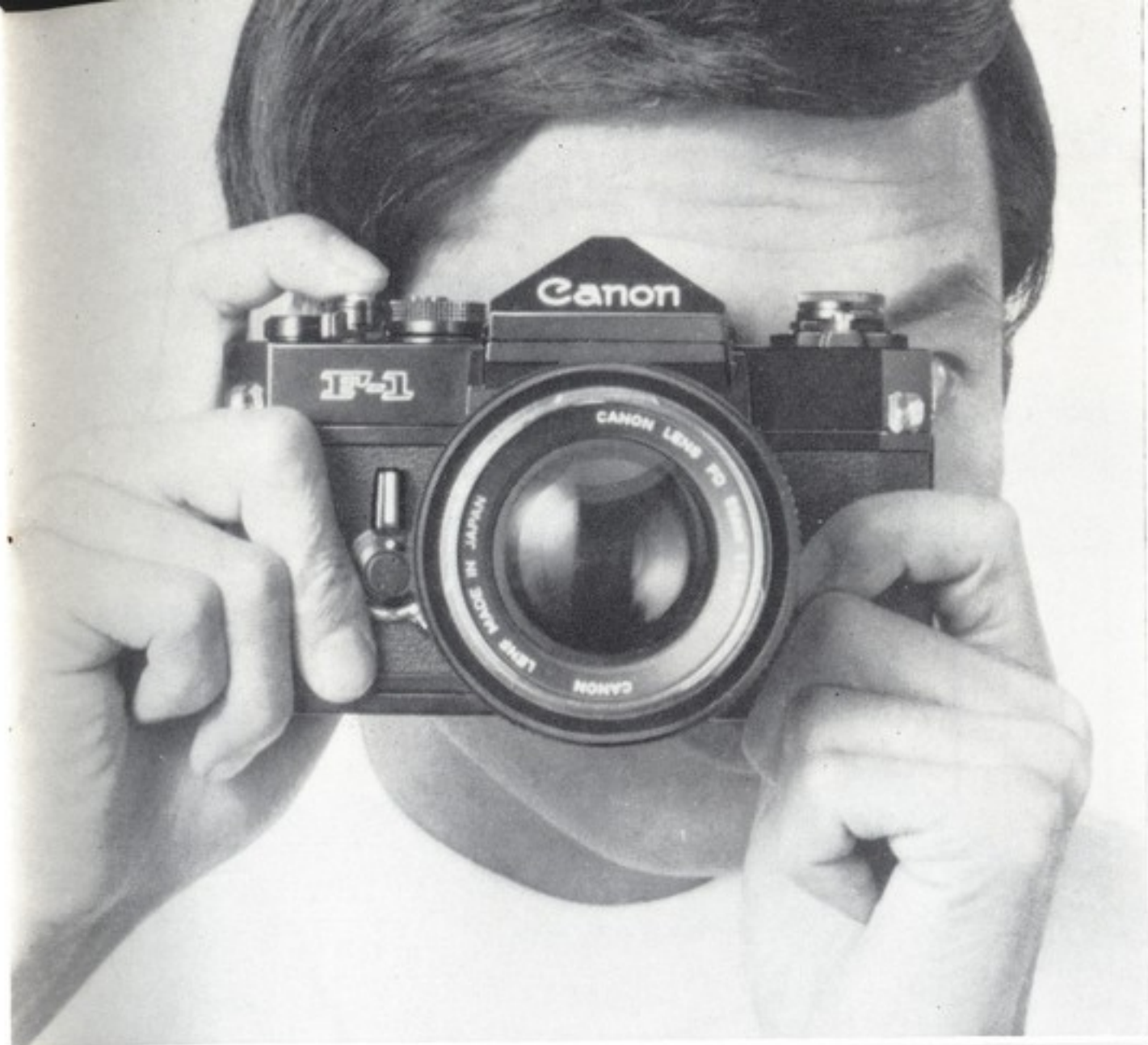


アイカップ

カメラの 構え方

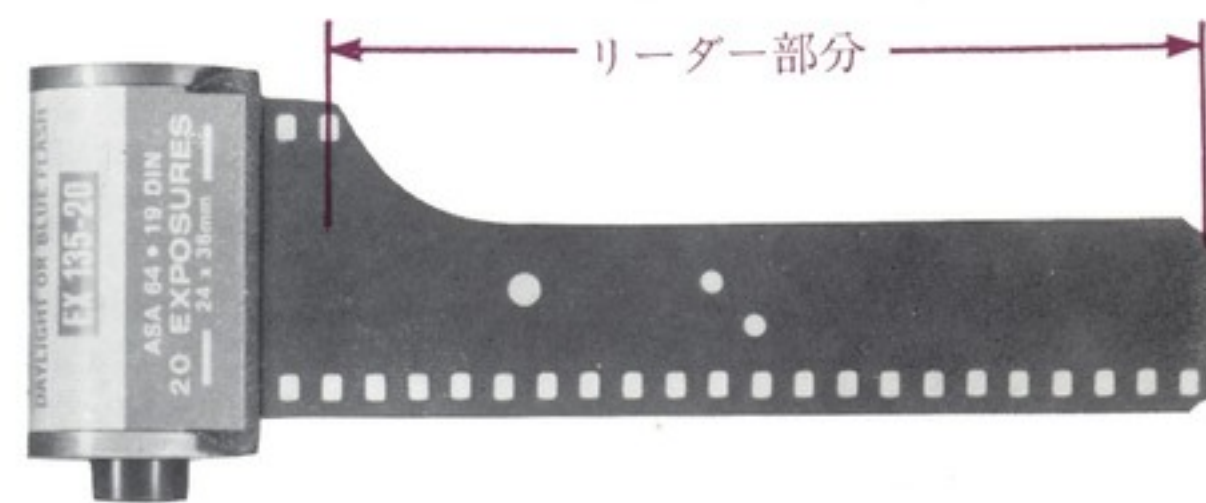
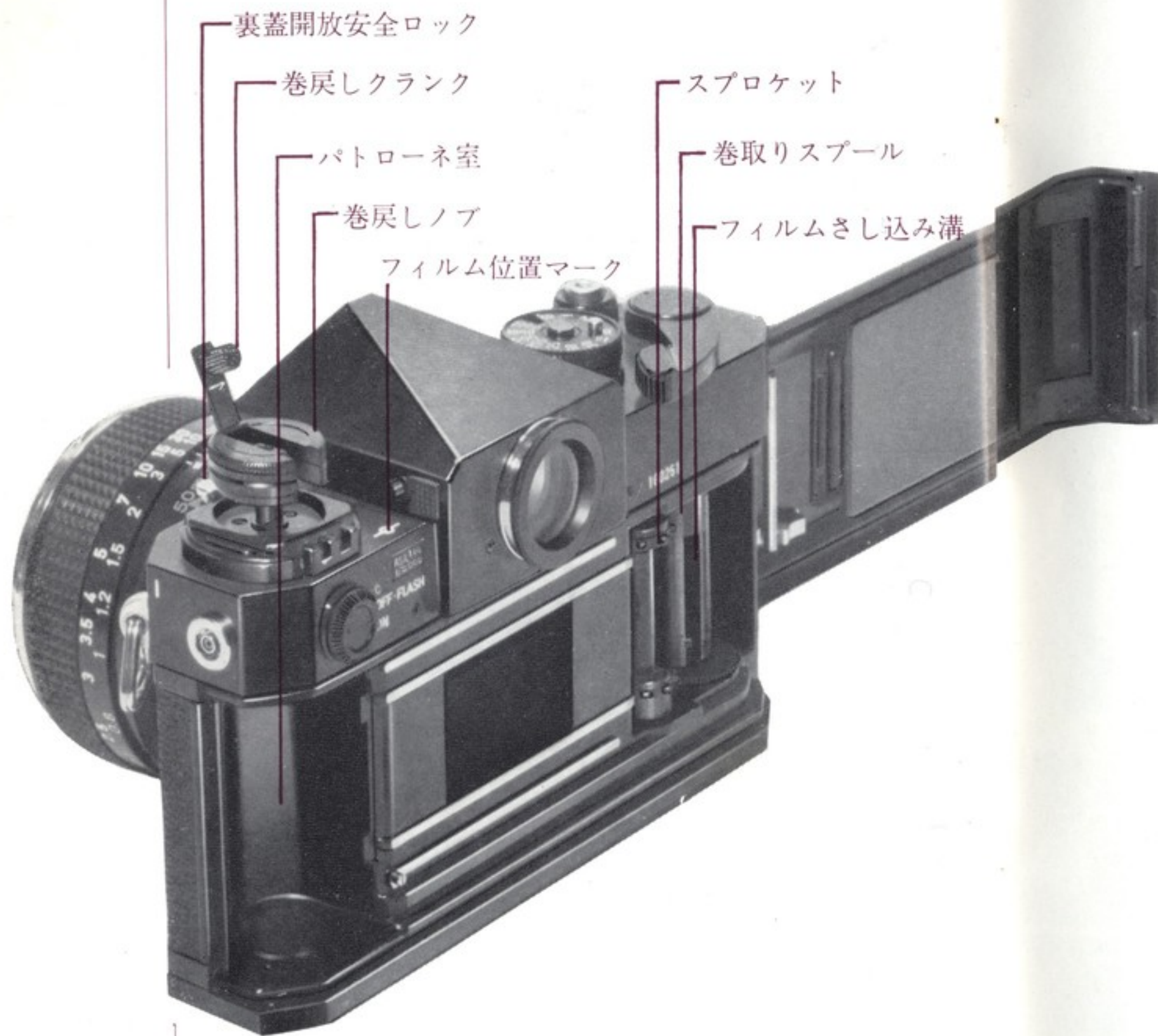
撮影のとき、カメラを確実に構えることは、鮮鋭なピントの写真をとるために最も大切です。カメラは縦位置または横位置の状況に従って写真のように持ち、ファインダーを覗いて構図の決定をすると同時にピント合わせをし、それから静かにシャッターを切ります。そのさい、特に次のことが大切です。

- 1 両手は努めて深くカメラを握り込むこと。
 - 2 カメラを頬あるいは額に当てて固定すること。
 - 3 横位置のときは両ひじ、縦位置のときは少くとも一方のひじをピッタリと体に付けること。
- シャッターボタンを乱暴に押すことはカメラブレの原因になります。
 - 撮影には三脚とレリーズを使う方が確実です。特に望遠レンズやスローシャッターを使用するときは、絶対必要です。
 - 三脚使用のためのカメラホルダー F およびキヤノンレリーズが用意されています。ご利用ください。



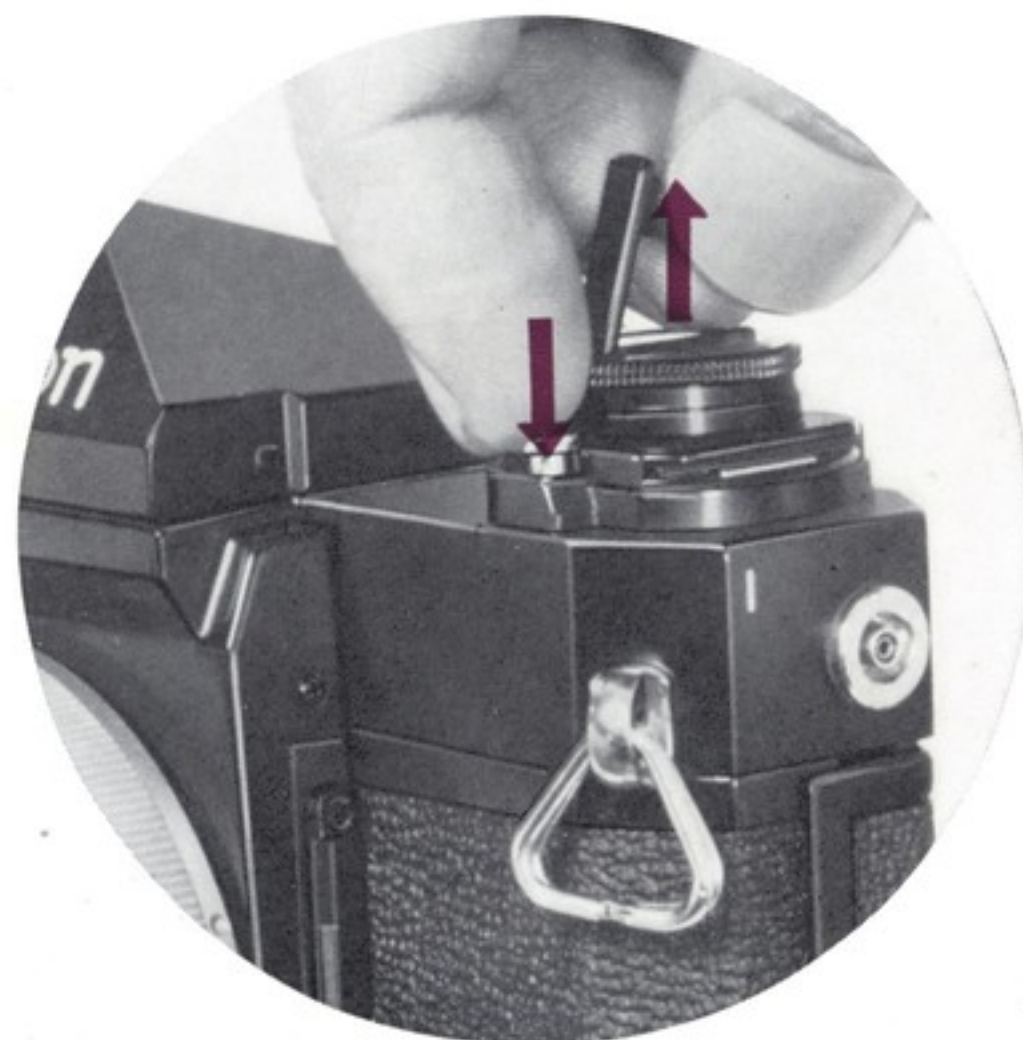
フィルムの つめ方

使用フィルムは、市販の日中装填用パトローネ入り 35mmフィルムです。装填のさいは直射光下を避けてお取扱ってください。



裏蓋の開き方

裏蓋開放安全ロックを押しながら、巻戻しノブを引出すと裏蓋が浮上がります。写真のように巻戻しクランクを持上げて行くと操作が容易です。



フィルムの装填

1 裏蓋を開いたのち、巻戻しノブを押上げた状態でパトローネを入れ、巻戻しノブを押下げてパトローネ軸にさし込みます。

ノブが完全に戻り切れないときには、押し気味にしなが
ら左右にわずか回すとさし込めます。

2 フィルムを少し引出し、先端を巻取りスプールの溝にさし込みます。2孔分位が適当です。

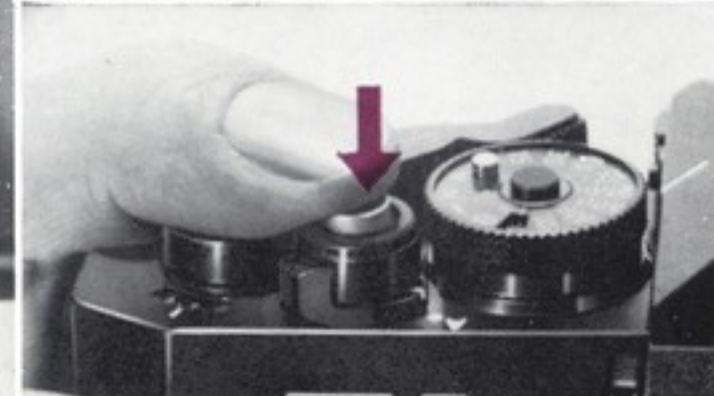
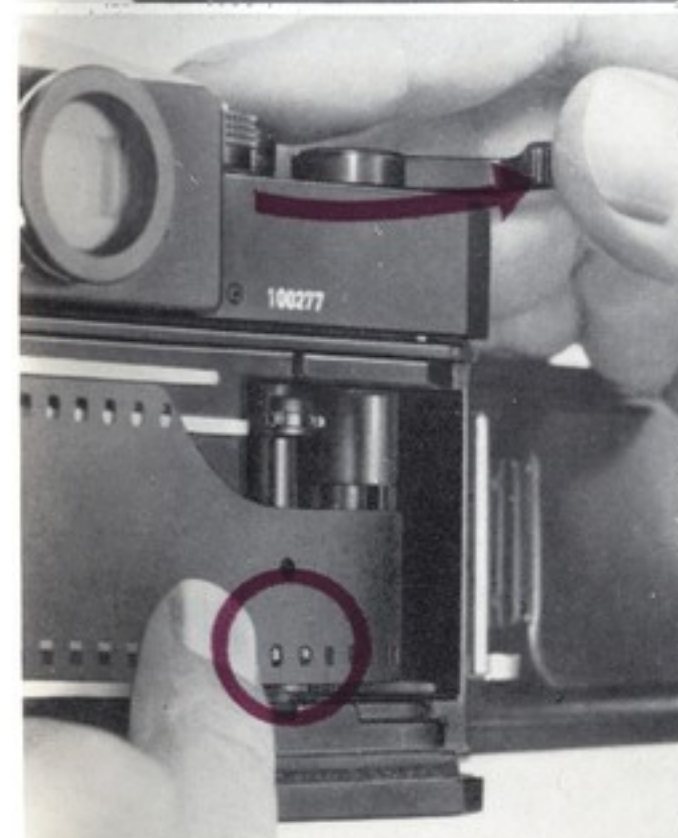
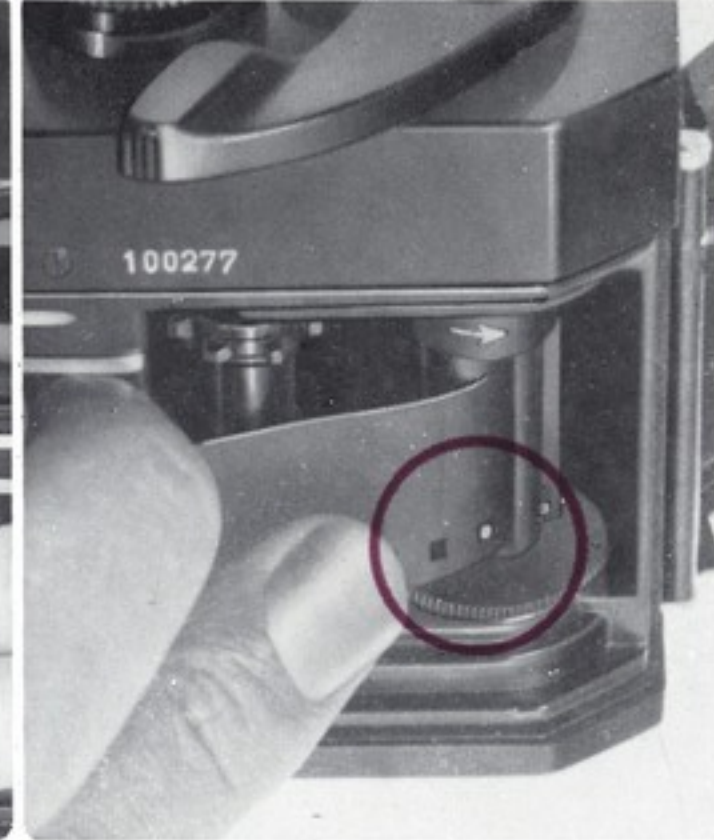
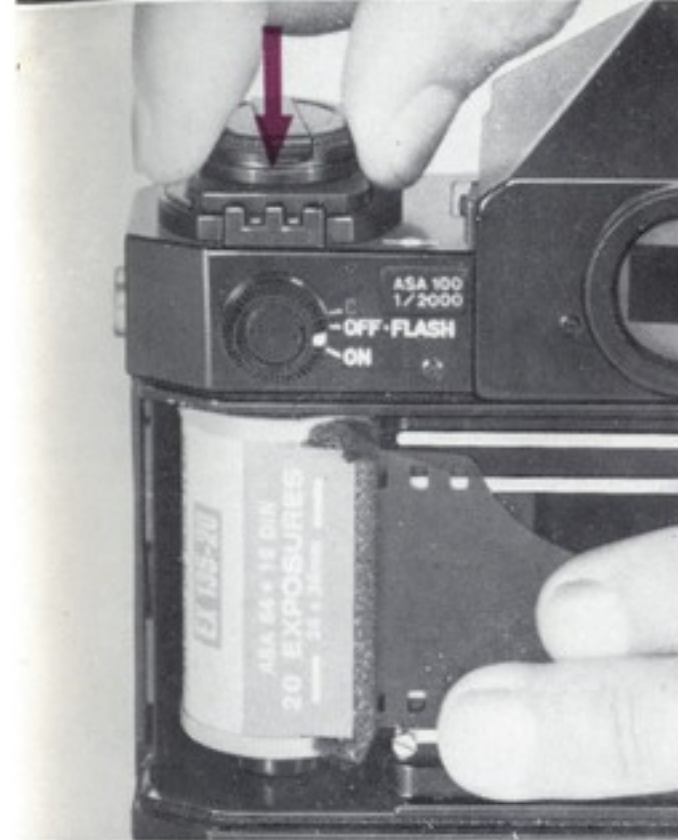
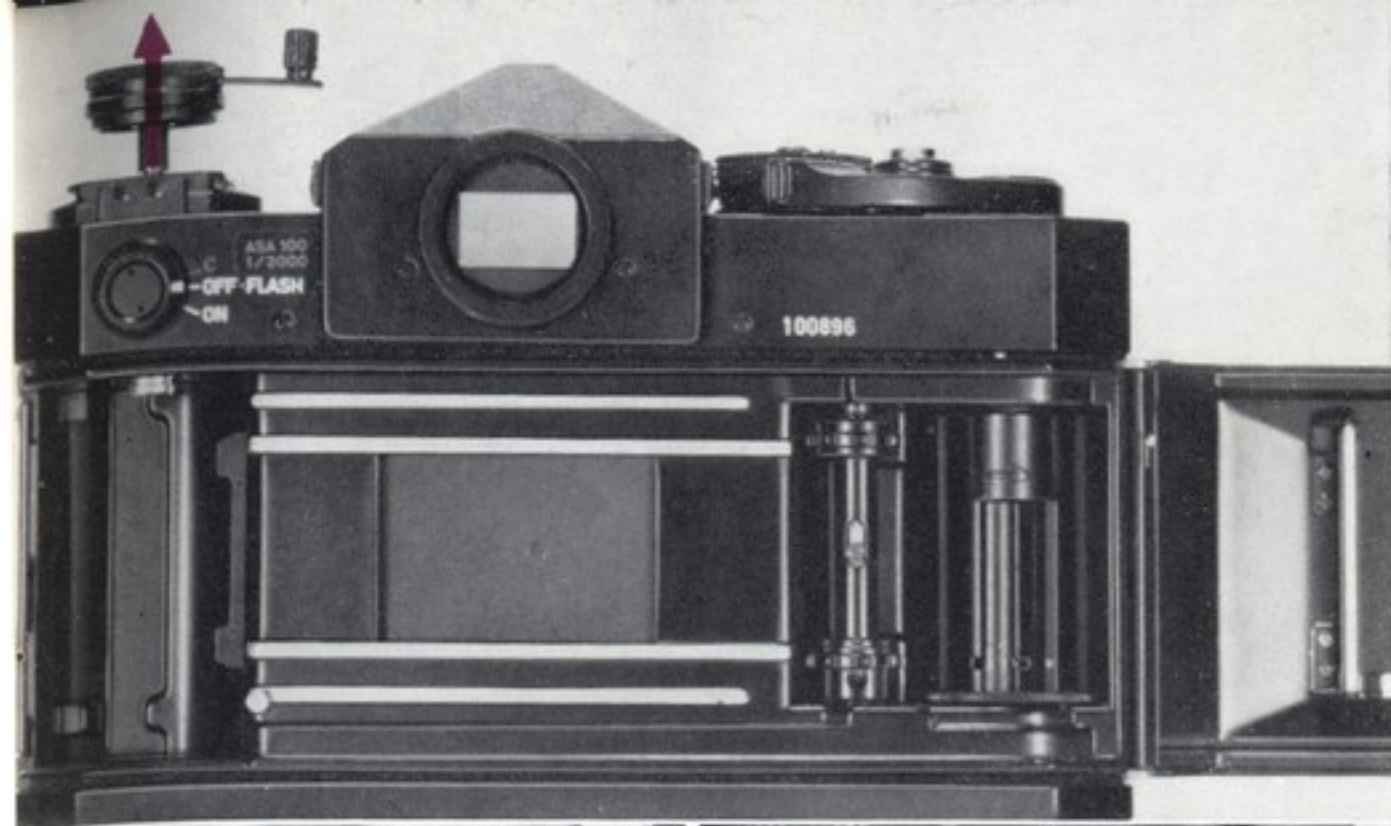
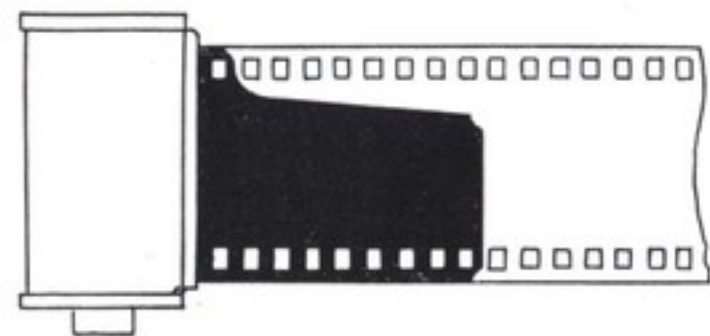
3 巻上げレバーを回しフィルムを1回巻取ります。そのときスプールの突起にパーフォレーションがかかり、同時にフィルム送りのスプロケットの歯にパーフォレーションがかかっているなければなりません。

4 フィルムにたるみがなく、パトローネが浮上らぬことを確かめて裏蓋を閉じます。

5 2回空写しします。

レンズキャップをかぶせたまま、巻上げてシャッターを切る操作を2回繰返してください(空写しといえます)。次の巻上げで、フィルムカウンターは、1枚目をあらわす(・)に進み撮影準備ができます。

●暗室装填用長巻きフィルムを使用するときは、リーダー部の先端を下図のように切断してください。



1	
1	2
3	
	5

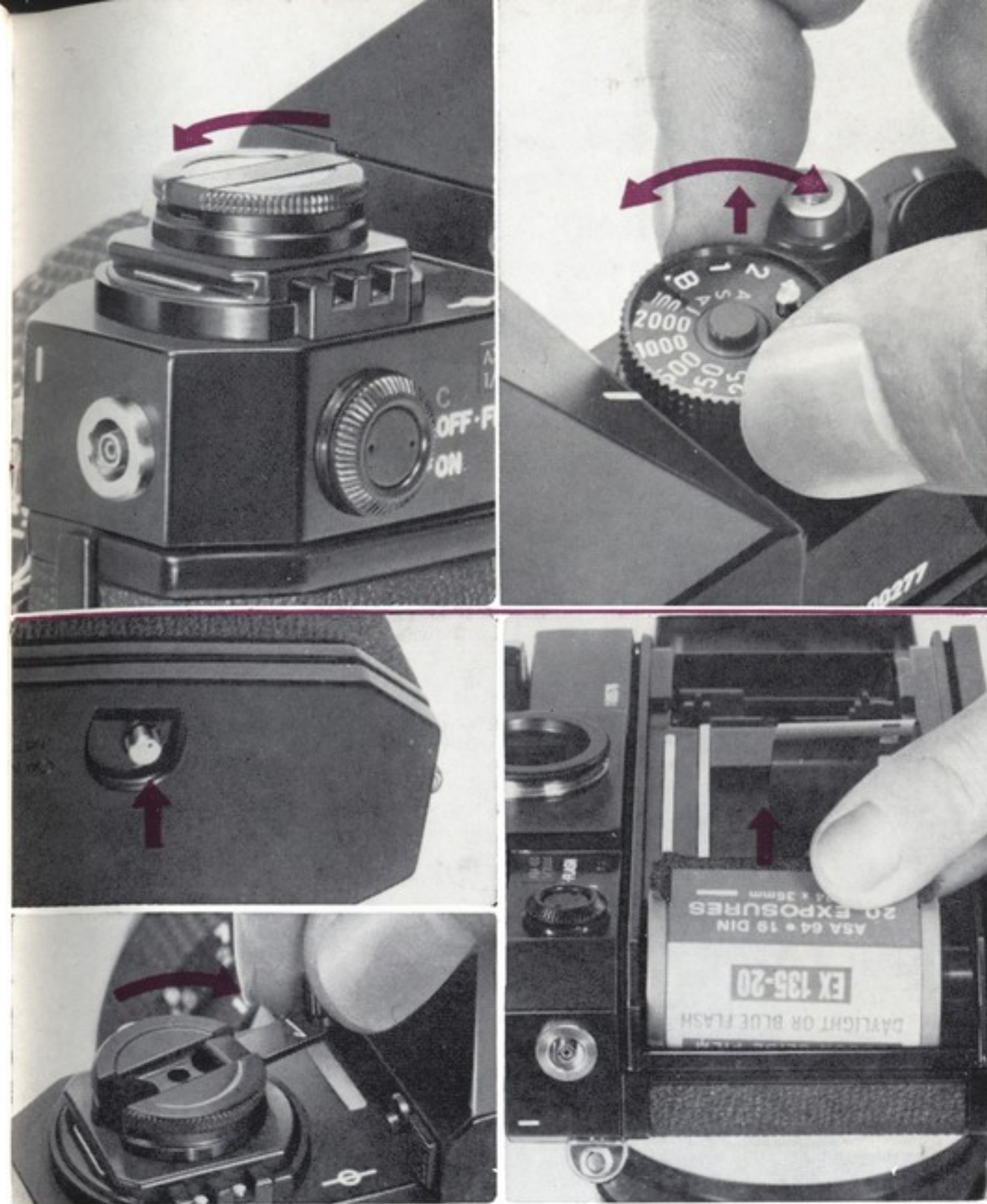
“正しいフィルム装填”の確認

巻上げをするたびに、巻戻しノブが反時計方向に回ればフィルムが正しく装填されている証拠です。もし回らなければ、フィルムにたるみがあるか、スプロケットにパーフォレーションがかかっていない場合です。巻戻しノブを回してたるみをとっても、巻上げ時に巻戻しノブが回らない場合には、一旦フィルムを巻戻し(50頁参照)てから装填しなおしてください。

フィルムの感度表示

フィルムの装填をしたときは、忘れずにそのフィルム感度を、シャッターダイヤルの小窓に表示しておきます。セットのしかたは30頁のフィルム感度の合わせ方をご覧ください。

●これをしないとメーターによる適正露出が得られなくなります。



フィルムの巻戻し

撮影されたフィルムはカメラの中で裸のまま巻取られていますから、巻戻さずに裏蓋を開くと全部無駄になります。撮影後は必ずフィルムをそのパトローネ内に巻戻します。

- 1 フィルムが終りになると、巻上げがきつくなりますから、巻上げを止めます。
- 2 カメラ底部の巻戻しボタンを押込みます。ボタンは一度押せば指を離してもさしつかえありません。
- 3 巻戻しクランクを引起し、巻戻しクランクに刻印された矢印方向に回し、フィルムをパトローネ内に巻戻します。巻戻し中、抵抗が軽くなり、巻戻しボタンの回転が止まったら巻戻し操作を止めます。
- 4 裏蓋を開きパトローネを取出します。
- 5 巻戻しボタンは、巻上げレバーを1回巻上げると自動的に戻ります。

- 6 フィルムが終りになっているのに、無理に巻上げるとフィルムがパトローネ軸からはずれたり、切れたりして巻戻しができなくなります。ご注意ください。この場合には、暗室またはダークバッグの中で裏蓋を開いて巻戻してください。
- 7 フィルム装填が不確実で装填し直す場合、巻戻し過ぎてパトローネ内にフィルムを巻込んでしまいますと、装填できなくなりますからご注意ください。

セルフ タイマー

- 1 巻上げレバーを巻上げ、シャッターをチャージします。
 - 2 セルフタイマーレバーを下図に示す矢印方向に止まるまで一杯に回し、
 - 3 シャッターボタンを押してください。
 - 4 はじめにセルフタイマーレバーが作動し、約 10 秒後に露出が行われます。
 - 5 シャッターの巻上げを忘れ、セルフタイマーのみをセットしてシャッターボタンを押しても、全く作動しませんからご注意ください。巻上げレバーを巻上げてからシャッターを押すと作動します。
 - 6 セルフタイマーレバーは、巻上げ後定位置に戻して、測光に使用することができます。
 - 7 ミラーロックした状態で、セルフタイマーレバーをセットすると、ミラーロックは解除されてしまいます。セルフタイマーをセットしてからのミラーロックは可能です。
- セルフタイマーセットを途中で止めるとシャッターがロックされることがあります。このときは一杯に回せば解除されます。



本機では専用ストロボ使用による追針式フラッシュオート撮影と、普通のストロボによる同調撮影ができる設計になっています。前者を CANON AUTO TUNING SYSTEM 略して CATS キャッツと呼びます。

使用できるレンズは FD 50mm F1.4, F1.8 および FD 35mm F2 の 3 本で、距離信号を伝えるフラッシュオートリングとキヤノンスピードライト 133D. それを取付けるためのフラッシュカプラー L を併用します。この組合せでストロボの充電電圧量と撮影距離が信号としてメーター回路に入りますから、プリセット絞りリングを回してメーター針に追針を重ねるだけで適正絞りがきめられます。

接点はカメラ後部から見て右側がフラッシュオートコントロール接点、左側がフラッシュ直結接点です。



フラッシュ 同調

一般のストロボあるいはフラッシュユニットを取付けるには、アクセサリシューにフラッシュカプラー D をさし込み、これに各発光器を取付けてコードをカメラのフラッシュターミナルソケットに接続します。

また、フラッシュカプラー D には直結接点があり、キャノライト D のような直結式発光器の使用ができます。

露出の決定

- 1 フラッシュオートの場合は、シャッタースピードを1/60秒(専用)にセットし、メータースイッチを OFF-FLASH に回します。この状態で距離合わせをしたときのメーター針に、絞りリングを回して追針を重ねると適正露出が得られます。
- 2 一般のストロボおよびバルブの場合には、ガイドナンバーを撮影距離で割って絞りを算出してセットします。算出単位は、ガイドナンバーがメートルなら撮影距離もメートルを使用し、メートルとフィートを混用してはなりません。

またキャッツストロボで、指定以外のレンズを用いる場合もガイドナンバー計算で使用します。スピードライト 133D のガイドナンバーは 20 (m), 66 (ft) です。

●F-1 のX接点は目盛 60 にあります。

●フラッシュターミナルは JIS B 型です。

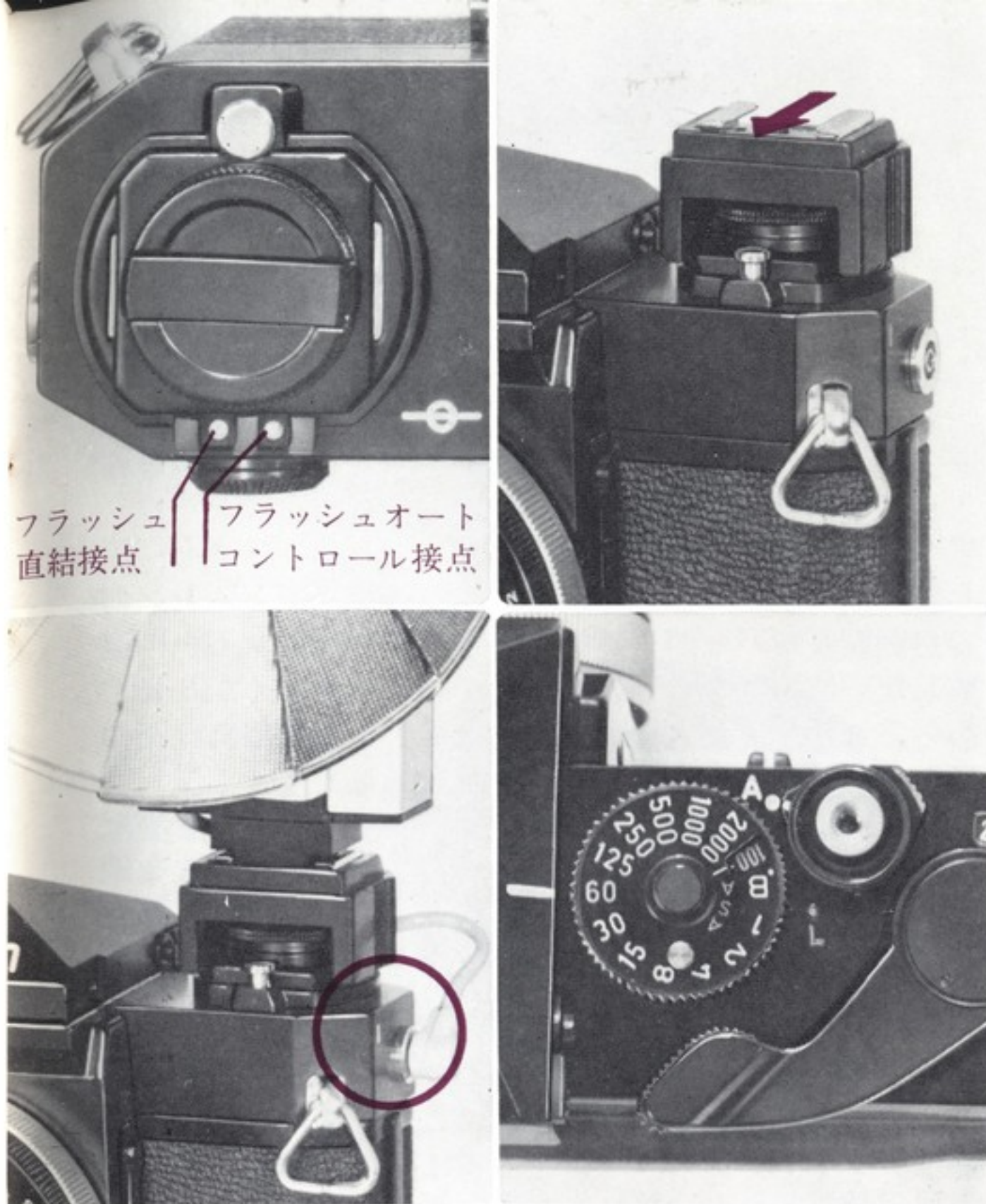
●×印の部分は使用できません。

※1/30 秒の場合バルブのバラツキにより多少露出ムラの出ることがあります。

フラッシュバルブ	同調範囲(シャッタースピード)											
	2000	1000	500	250	125	60	30	15	8	4	2	1 B
FP 級	○	○	○	○	○	×	※	○	○	○	○	○
M, MF級	×	×	×	×	×	×	※	○	○	○	○	○
スピードライト	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○

フラッシュオートリング用距離信号ピン

キャノン直結式スピードライトによるフラッシュオート用距離信号ピンで、キャノン FD 50mm F 1.4, FD 50mm F 1.8, FD 35mm F 2 の 3 本のレンズに付いてお



り、フラッシュオートリングを取付けたさい、フォーカシングリングの回転量つまり撮影距離をそのリングを介してメーターに伝達します。

これによってガイドナンバーの計算なしに、プリセット絞りリングを回して追針式にファインダー内で露出の決定ができるようになっています。

フラッシュオートリングは、レンズ前面に取付け、コードによりキャノンスピードライト 133D に接続します。

レンズの 取扱い

レンズの交換

カメラからレンズをはずすには、レンズのパヨネットリングを反時計方向、左回しに回し、リングの赤点とボディの赤点が合った位置で前方に引出します。

レンズを取付けるには、カメラのマウント部の赤点に、レンズの赤点を合わせてはめ込み、パヨネットリングを時計方向に回して締付けます。このさいレンズのパヨネットリングの赤点が、パヨネットリング内側にある位置ぎめピンの真上になれば取付けできません。

●レンズ交換には必ず絞込み測光レバーのロックを解除しておきます。ロックされたままの状態ですと、レンズの自動絞りレバーが、ボディの自動絞り作動レバーに連結しない位置になり、自動絞りがはたらかなくなりますから、ご注意ください。このときボディ連動部には不作動を知らせる赤丸指標が見え注意を促します。

同様に自動絞りレバーを手動位置にクランプしたまま取付けると自動絞りがききませんから必ずレバー位置を確認してください。

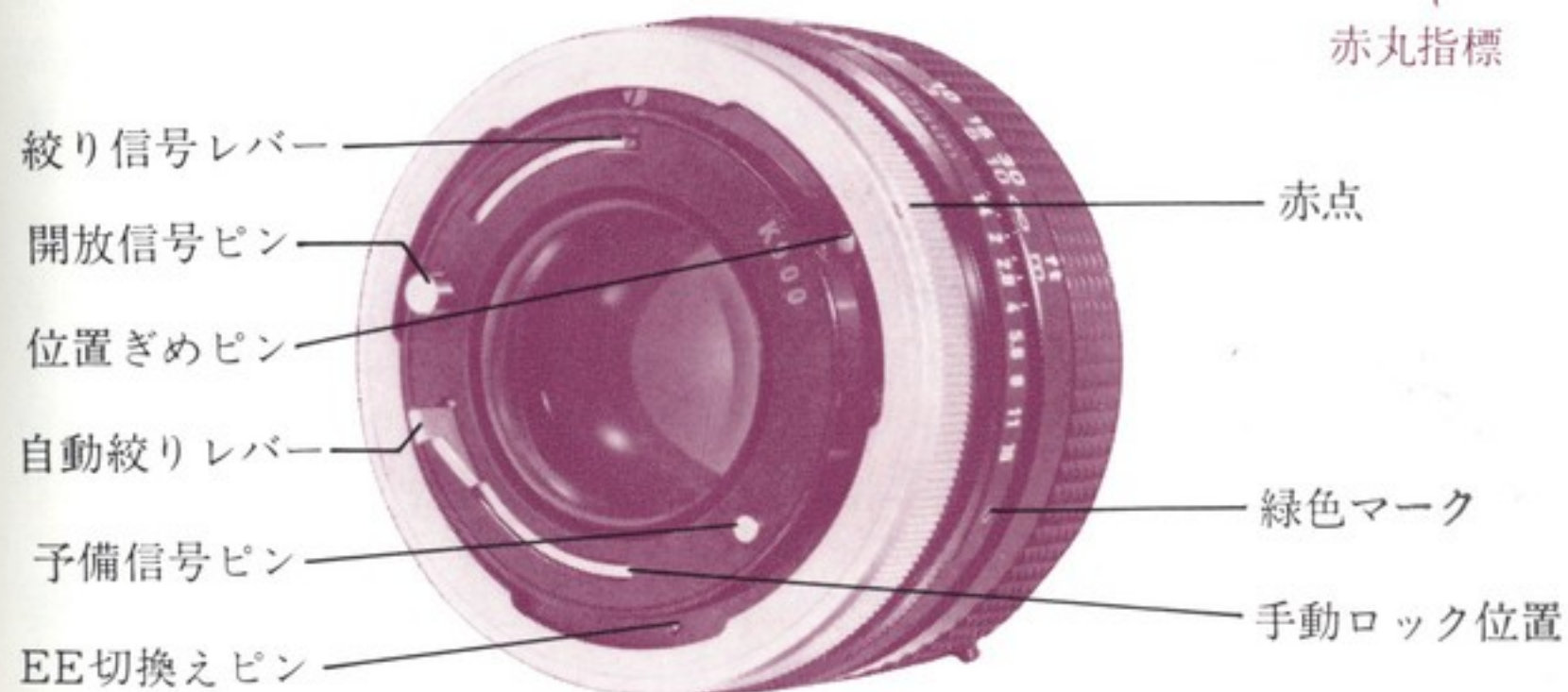
●取付けのさいレンズのパヨネットリングを十分に回して位置ぎめピンに赤点を重ねておきます。

●交換のさいは、直射光下を避け、素早く行ってください。レンズを取付けず放置しておく、フィルムにカブリを生ずるおそれがありますのでご注意ください。

●ボディやレンズのマウント部には絞りの作動レバーや各種信号があり、いずれも大切な部分ですから手をふれないでください。またレンズをはずしておく場合は、必ずボディにはカメラ蓋、レンズには底蓋をかぶせて保護することを忘れないでください。底蓋の取付けは、ボディの取付けと同じく底蓋の位置ぎめ溝にレンズの位置ぎめピンをはめ、パヨネットリングで締付けます。ただしプリセット絞りリングが緑色マークにセットされていると、従来の底蓋には取付けできません。レンズをはずした状態、つまりパヨネットリングの赤点が位置ぎめピンの真上にあるとき、あるいは絞りリングが開放値にセットしてあるときには、絞りレバーを動かしても絞り羽根が動かず、また信号レバーも動かない安全機構になっています。故障ではありません。



赤丸指標



レンズ信号

絞り信号レバー 自動絞りのプリセット絞り量をカメラ側に伝達するレバーで、プリセット絞りと1対1の動き量です。通常はプリセット絞りリングを回して作動させますが、プリセット絞りリングを緑色マークにセットした場合には、カメラ側から動かすことができるようになります。サーボEEファインダー使用時の絞りセットに利用されます。絞り信号レバーは、取付けパヨネットリングを取付け位置に回すと作動する状態にセットされる安全装置付きです。

開放信号ピン 各レンズの絞り開放値の伝達ピンで、レンズ交換により開放F値が変わった場合でも、開放測光の誤差補正がレンズ装着時に自動的に行われます。

自動絞りレバー カメラと連動して、絞りをプリセット位置まで絞込む連動レバーです。手動ロック位置にクランプすると手動絞りとなります。

EE 切換えピン レンズ絞りを緑色マークにセットするとでてくるピンで、F-1以外のボディに取付けができません。また取付け後もこの丸印にセットできない安全ピンです。従来の底蓋を取付けるときもご注意ください。

予備信号ピン 今後のシステムアクセサリ開発用です。

●レンズの泡は、明るさを何百分の一か、何千分の一か減らすこととなりますが、この程度では撮影上、全然問題になりません。また像の鮮鋭度にも何ら影響がありません。

マクロフォトカプラーへの取付け

複写、拡大撮影等で、レンズを逆向きにしてマクロフォトカプラーに取付け使用する場合には、自動絞りレバーを手動側にロックした上で、さらにバヨネットリングをマウント取付け位置まで回してください。そうしないと手動絞りができません。

※この場合絞り信号レバーを動かさぬようご注意ください。

距離目盛

距離目盛はピントを合わせた被写体とフィルム面との距離を示すものです。普通の撮影では必ずしも必要ありませんが、被写界深度を知る場合や、赤外線撮影あるいはガイドナンバーを使用するフラッシュ撮影などに必要です。目盛は1桁数字の距離ではその文字の中心、2桁数字では2つの文字の間、3桁数字では中央文字の中心がそれぞれ正しい目盛位置になっています。

赤外線マーク

赤外線撮影のときは、ピント位置が普通撮影よりも多少ずれますから修正しなければなりません。赤外線マークはその修正指標です。やり方は、まず普通にピントを合わせ、その距離目盛を読み取り赤外線マークに合わせるだけです。たとえば、ピントを合わせて距離目盛が10mとするとこの10の目盛を赤外線マークの位置までずらせばよいわけです。マーク位置は800m μ 程度の波長に最大感度をもつフィルムと赤外線フィルター、たとえばコダックIR 135フィルムとラッテン87フィルターとを用いる場合を基準にして目盛ってあります。

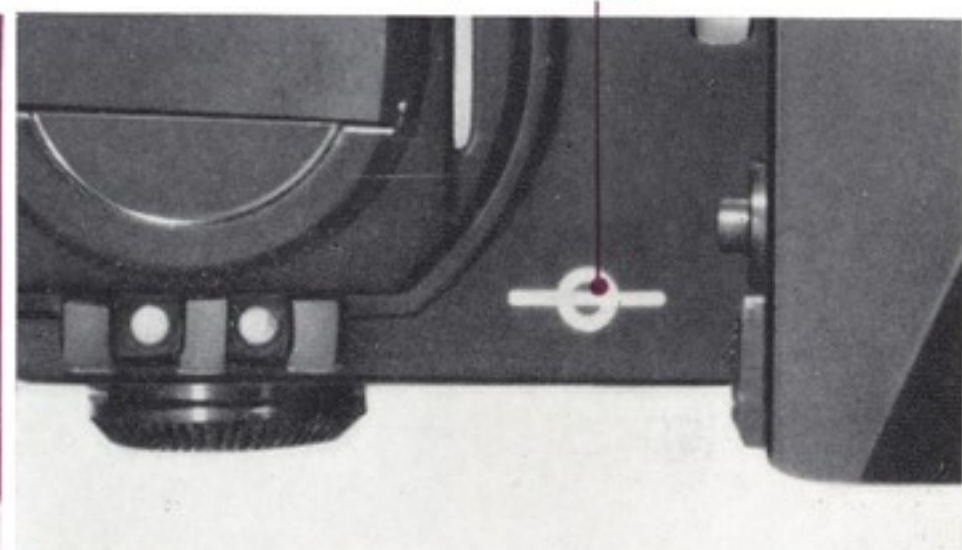
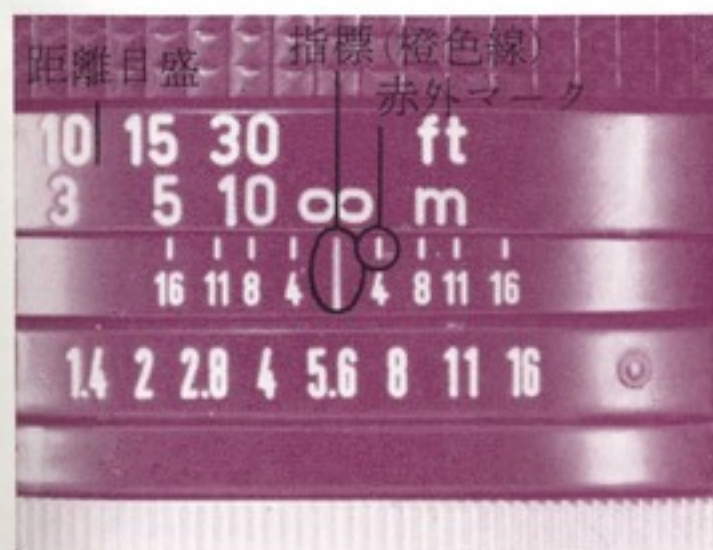
フィルム位置マーク

レンズの距離目盛は、フィルム位置から測定した距離が目盛ってあります。したがって、実測によってピントを合わせる場合には、フィルム位置マークから測って、その距離をレンズの目盛にうつします。一般撮影にはあまり必要なく接写、複写時にアクセサリの使用表により、実測してカメラ位置をきめるのに利用します。

FD レンズマウント (FL レンズとR レンズ)

キヤノン F-1 のレンズマウントは FTb, FT, ペリックス QL, ペリックス, FX, FP と同一ですからペリックス QL, ペリックス専用の広角レンズ FLP 38mm F 2.8 をのぞく FL レンズのすべてが共用できます。自動絞りが連動し絞込み測光ができます。また従来のキヤノンフレックス用 R 交換レンズは全部取付け使用が可能です。自動絞り機構が異なるため撮影は手動絞りで行い、測光も絞込みにより測光レバーを併用します。

フィルム位置マーク



被写界深度目盛

ひとつの被写体にピントを合わせると、その被写体の前後で鮮明に写る範囲があり、これを被写界深度といいます。その範囲は撮影距離と絞りの大きさによって変わりますから、距離目盛に関連させて、絞り数値が目盛られています。

F 8 に絞った場合

被写界深度目盛の使い方は、たとえば 50mm レンズで 3m の距離にある被写体にピントを合わせ、F8の絞りを使うとすれば、下図のように距離指標の両側にある8の目盛に対応する距離目盛、すなわち約 2.3m と約 4.3m とを読み取ります。そして、この間にある被写体が鮮明に写ることを目盛から知るわけです。

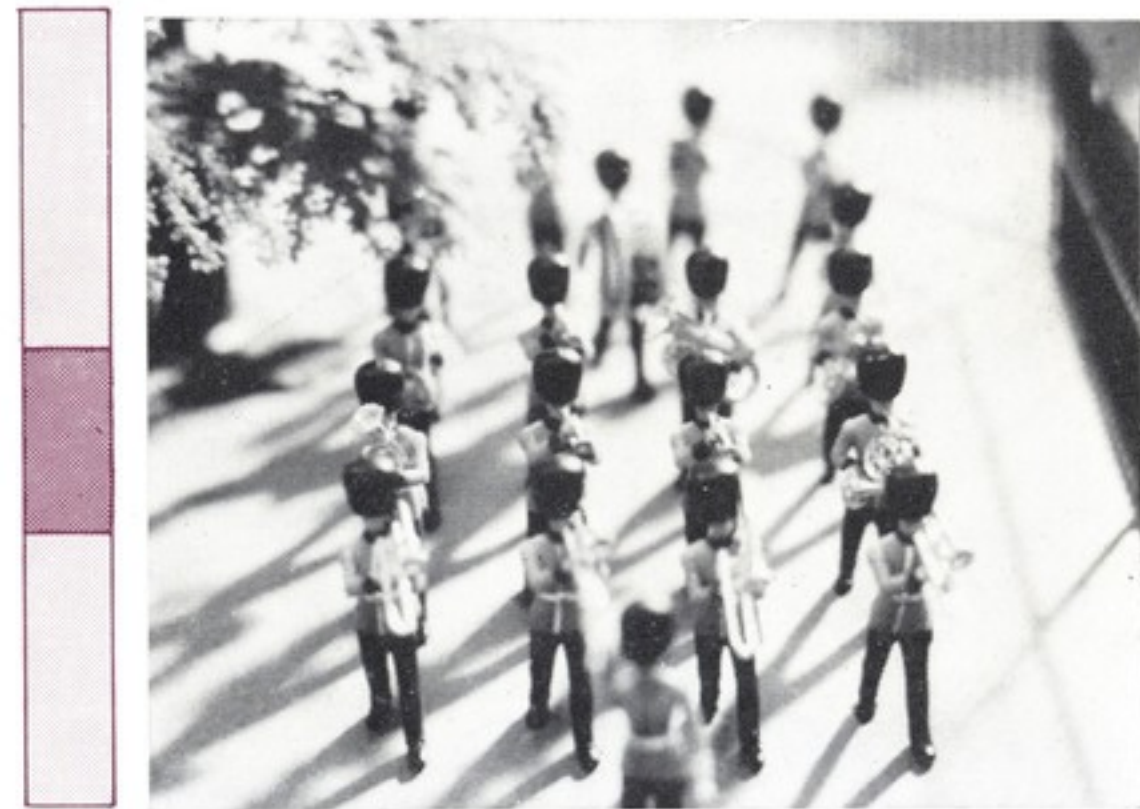
F 16 に絞った場合

同じく F 16 に絞れば約 1.9m から約 7.6m まで鮮明に写ることがわかります。

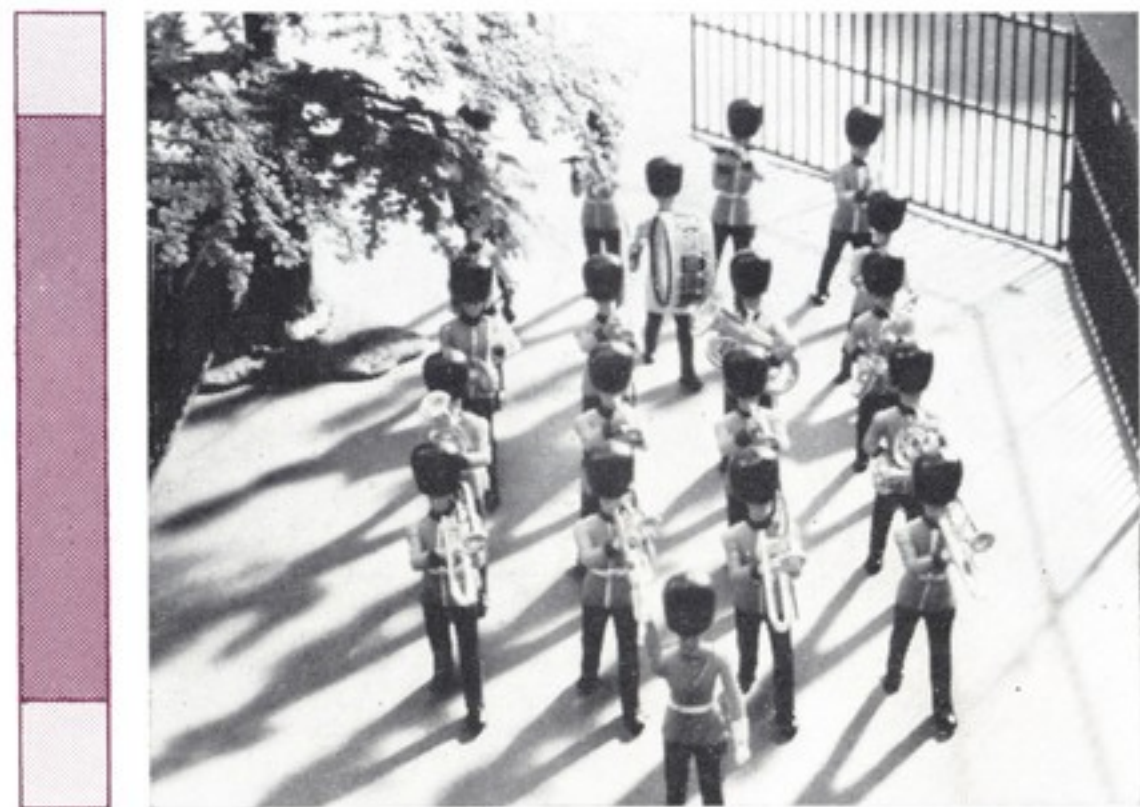
被写界深度の性質

被写界深度には、次のような性質があります。ある被写体にピントを合わせると、前方よりも後方に深く、レンズを絞るほど、また撮影距離が遠いほど前後に深くなり、逆の場合ほど浅くなります。同じ撮影距離で同じ明るさ (F ナンバー) を使用する場合、焦点距離の短いレンズほど、被写界深度は深くなります。

キヤノン F-1 で深度を観察するには、絞込み測光レバーを倒してファインダーを覗き、絞りリングを回します。



F8 に絞った場合



F16 に絞った場合

ミラーのは ね上げロック

超広角撮影や顕写などでは構図をきめたのち、なるべくショックを与えずにシャッターを切る必要があります。このような場合にはミラーを上方に固定して、ミラーによるショックを減少させることができます。

ロックのしかたは、絞込み測光レバーを倒し、測光ロック状態にしてから、さらにミラーロックレバーをM位置に回します。これでミラーが上方に固定されます。

測光レバーのロックは確実に行ってください。ロック不十分の場合ミラーが上がったままになることがあります。

ミラー固定での撮影は、手動絞り撮影の状態になり、シャッターのみ作動します。

FL 19mm F3.5 レンズを使用する場合には、レンズが後方にでているため、レンズ取付け前にミラーロックを行っておきます。このレンズ使用のときは別に専用ファインダーが必要です。

ミラーロックの解除は、ミラーロックレバーをM位置から白指標位置に回します。ミラーは自動的に戻ります。

●ミラーロックはシャッターの巻上げ、シャッタースピードに関係なく行うことができ、またフィルムの無駄送りもありません。

●ミラーロックを行ったときは、一眼としての機能を失います。また距離合わせが目測になります。

●ミラーロックをしたままで撮影しないときには、レンズに必ずキャップをしてください。長く放置するとフィルムにカブリを生じます。

●利用後は、必ずミラーロックレバーを戻してください。

●ミラーロック時に 1/2000 は使用できません。

●ミラーロック後にセルフタイマーをセットするとミラーロックが解除されます。



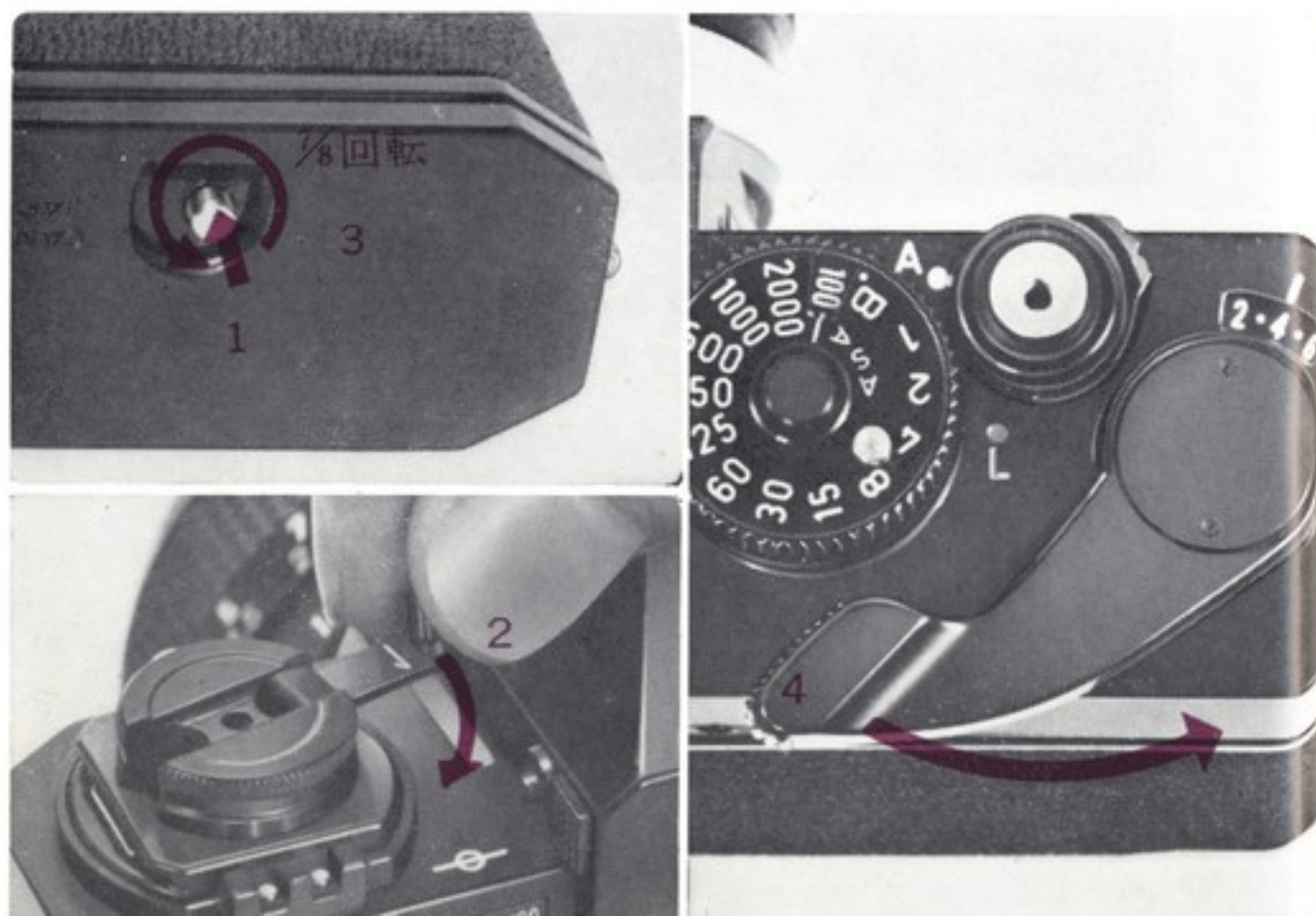
二重露出

キヤノン F-1 は通常の手扱いは二重露出防止になっていますが、必要に応じて次のようにすれば二重露出撮影ができます。

- 1 第1回目の露出が終わったら、巻戻しボタンを押します。
- 2 巻戻しボタンの指標を見ながら、巻戻しクラックでフィルムを巻戻し、
- 3 指標が 7/8 回転したら巻戻しを止めます。
- 4 ついで巻戻しクラックを軽く抑えたまま、レバーの巻上げを行い、巻戻しクラックに抵抗を感じたらいったん巻上げ操作をやめます。
- 5 それから普通に巻上げをします。

以上の操作を繰り返すと同一フィルム面上に何回でも露出することができます。ただし、フィルムカウンターは巻上げごとに進みます。

●巻戻しのさい巻戻しボタンが 7/8 回転を越えないことが大切です。



レンズねじ径に応じて各種フィルターが用意されており、黒白フィルム、カラーフィルムに対してそれぞれ特有の効果をあらわします。

キヤノン F-1 の露出計は TTL 方式ですから、露出倍数の補正は全く必要ありません。撮影効果をより高めるキヤノンフィルターをぜひお備えください。

種類	フィルター効果
UV (SL 39・3 C) 黒白、カラー共通	・紫外線だけを吸収し、各色光には無影響です。海浜高山などの紫外線の多いところでは特に有効です。カラー撮影の常用フィルターとしてもおすすめします。
Y 1 (SY 44・2 C) Y 3 (SY 50・2 C) G 1 (MG 55 C) O 1 (SO 56・2 C)	黒白用 ・黒白フィルムを利用して、写すもののコントラストを強めます。海の色を整えたり、青空をおさえて白雲を浮き出させます。赤や黄色は多少明るくなります。 ・赤が極端に白くなるのを防ぎ、空や顔を適当な明るさの調子にし、新緑などの明るさもそのまま表現します。 ・青色はかなり暗く、黄や赤が見た目より大分明るくなります。コントラストを強調し遠景には特に有利です。
R 1 (SR 60・2 C) 黒白、赤外共通	・コントラストを強調し、場合によっては白昼の調子も夜景に近くなります。赤外フィルムに併用するフィルターでもあります。
スカイライト } 黒白 ND 4 ND 8 } カラー共用	・青空や木蔭の色を自然に近づける作用をします。 ・ND 4 は 1/4、ND 8 は 1/8 に光量を減じます。カラーの色再現性には全く影響がありません。
カラーコンバージョン A (12相当)	・タングステンタイプフィルムの転換用
カラーコンバージョン B (12相当)	・デイルイトタイプフィルムの転換用
カラーコンバージョン A 4	・デイルイトタイプの曇天用および晴天日影用
カラーコンバージョン B 4	・デイルイトタイプの朝夕用
カラーコンバージョン A 8	・ユニバーサルタイプフィルムの曇天用 タングステンタイプ朝夕用
カラーコンバージョン B 8	・人工光フラッシュ用



キヤノン
フィルターの
おすすめ

付属品の 取扱い

レンズキャップ

両側つまみを押込むとはずせます。取付けのときも同様です。レンズキャップはフィルター取付けねじを利用して取付けできるようになっていますから、取付けねじをもつフィルターの上からもかぶせられます。

フード

レンズ先端のパヨネット部をはめ合わせて右回しにすると装着できます。また標準広角レンズのうち特殊なものを除いてフードを逆向きにしてレンズにかぶせ、パヨネット金具にはめ合わせて左回しにすると固定され、そのままカメラ皮ケースに収納できます。

底蓋

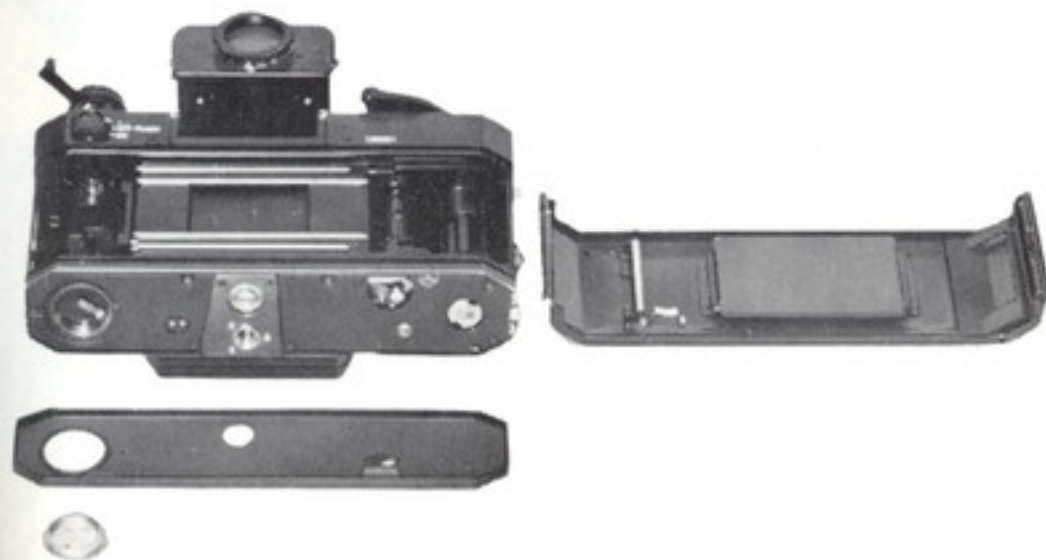
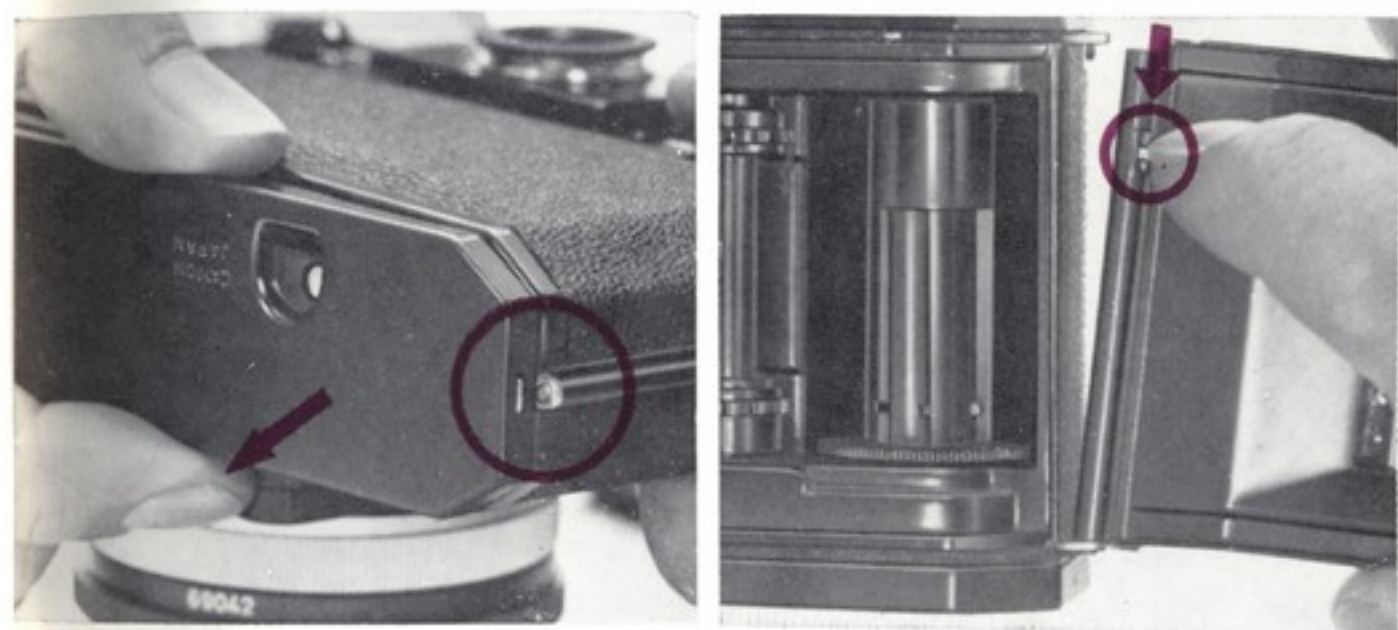
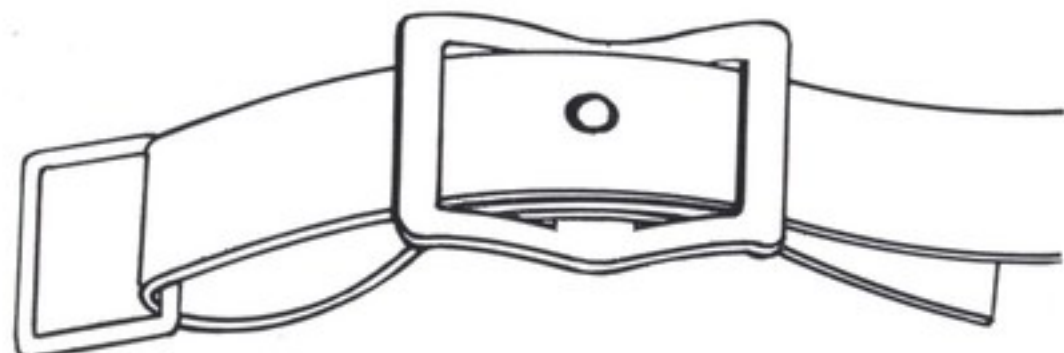
底蓋は、モータードライブ装着時のために取りはずし可能です。水銀電池室蓋をはずしてから引くとはずせますが、必要時以外にははずさないでください。

裏蓋

裏蓋はフィルムチェンバー 250 を取付ける場合のために取りはずし可能です。蝶番のピンを下に押し下げるとはずせますが、必要時以外にははずさないでください。

ストラップ

ストラップ先端が内側に来るように折り曲げて金具に通し中心のピンに穴をはめてください。



四大 アクセサリー

キヤノンブースター T ファインダー

キヤノンブースター T ファインダーは、F-1 ペンタ部と交換使用する測光ファインダーで、微光量下の測光をするとともに電子タイマーセットにより、適正な露出を与える電子装置です。一眼レフとして最も特長ある顕写、拡大撮影時および照明条件の悪い夜景や室内撮影などに有効で、長時間露出分野ではきわめて貴重な存在です。

セット 29,000 円

構成 ブースター T ファインダー コード 6V 2B 銀電池 No. 544 ファインダーダストカバー アイカップ F-1



キヤノンモータードライブユニット

本機は、すべての F-1 ボディおよび関連付属品との間に完全互換性を有する高精度の電動フィルム送り装置です。エレクトロニクスの導入により広範囲のタイマー撮影が行われるのみならず、1 秒間 3 枚の高速撮影および 36 枚連続撮影、長尺チェンバーの併用により 250 枚までの連続撮影ができます。またサーボ EE ファインダーと併用して無人による EE 撮影を可能にするというユニークな機能を持ち、かつ安定した作動が約束されているものです。

セット 62,000 円

構成 モータードライブユニット バッテリーケース
バッテリーコネクター MD バッテリーチェッカー MD
リモートスイッチ MD エクステンションコード MD
バッテリーマガジン 15V 2 コ

キヤノンサーボ EE ファインダー

F-1 のペンタ部と交換し、開放測光機構に連動させてシャッター優先式に適正絞り値にプリセットする EE 付きファインダーです。メーターを使用していないため、振動、衝撃に強く、光に対する応答が速いという特長があり、ファインダー視野内で、メーター情報も読取れます。測光方式は EE であることを考慮して中央部を重点的に測光する平均測光としているため、天空を含む風景撮影などにきわめて満足し得る性能となっています。また、モータードライブユニットとの併用で、EE による無人の連続撮影が可能のため、生態記録や実験記録に利用できます。

セット 39,000 円

構成 サーボ EE ファインダー コード 12V2E EE 連動アーム ファインダーダストカバー アイカップ F-1



キヤノンフィルムチェンバー 250

キヤノン F-1 とモータードライブユニットによる連続撮影機能を充実させるため、同時に設計された専用の着脱式長尺フィルム室です。撮影速度はモータードライブにより、1 秒間に最高 3 枚から 1 分 1 枚までの 7 段階のタイマーセット、別に 1 コマ撮影が可能です。

チェンバーの使用は、一般撮影の他に文献の複写、実験記録、スポーツ写真などで、連続現象を記録する場合に威力を発揮します。

セット 40,000 円

構成 フィルムチェンバー 250 フィルムマガジン 250 2 コ

交換レンズ

キャノン F-1 には、最高の撮影効果を期待できる専用の FD 交換レンズ群が豊富に完備しています。性能を十二分に発揮させるためにもぜひ専用の交換レンズをご使用ください。

FD 17 mm F 4	50,000 円	FL-F (蛍石レンズ)	
FD 24 mm F 2.8	30,000 円	FL-F 300 mm F 5.6(ケース付)	100,000 円
FD 28 mm F 3.5	24,000 円	FL-F 500 mm F 5.6(セット)	192,000 円
FD 35 mm F 3.5	18,900 円	マクロレンズ	
FD 35 mm F 2	32,000 円	FL 50 mm F 3.5	28,900 円
FD 50 mm F 1.8	14,800 円	FLM 100 mm F 4(ベローズ専用)	16,100 円
FD 50 mm F 1.4	22,000 円	特殊レンズ	
FD 55 mm F 1.2	39,000 円	フィッシュアイ 7.5 mm F 5.6(魚眼レンズ)	73,000 円
FD 100 mm F 2.8(フード付)	27,000 円	FD 55 mm F 1.2 AL(非球面レンズ)	145,000 円
FD 135 mm F 3.5(フード付)	19,900 円		
FD 135 mm F 2.5(組込みフード)	29,000 円		
FD 200 mm F 4(組込みフード)	28,000 円		
FD 300 mm F 5.6(組込みフード)	45,000 円		

キャノン FD ズームレンズ

FD 100 mm~200 mm F 5.6
(組込みフード) 34,900 円



アクセサリ

1 スピードファインダー	23,000 円	9 フィルムマガジン 250	3,500 円
2 ウェストレベルファインダー	5,500 円	10 バッテリーケース	3,500 円
3 アングルファインダー B	発売予定	11 バッテリーコネクター MD	3,500 円
4 マグニファイヤー	2,500 円	12 バッテリーチェッカー MD	2,000 円
5 フォーカシングスクリーン	各 2,500 円	13 バッテリーマガジン 15V	
6 視度補正レンズ	各 450 円	14 バッテリーマガジン 12V	1,000 円
7 アイカップ F-1 用	200 円	15 コード 12V 2E	2,000 円
8 フィルムローダー 250	12,000 円	16 コード 6V 2B	2,000 円
		17 リモートスイッチ MD	2,500 円



- | | | | | | |
|----|------------------------------------|-----------|----|---|----------|
| 18 | エクステンションコード MD | 1,500 円 | 28 | レンズキャップ C-55, C-58 | 300 円 |
| 19 | ファインダーダストカバー | 100 円 | 29 | スピードライト 133D セット | 13,000 円 |
| 20 | ペローズ FL | 14,000 円 | | (スピードライト 133D 8,500 円, フラッシュオートリング A または B 各 4,500 円) | |
| 21 | ペローズ M | 5,500 円 | 30 | フラッシュオートリング A | 4,500 円 |
| 22 | スライドデュプリケーター (複製装置) | 4,500 円 | | (FD 50mm F 1.8, FD 35mm F 2 用) | |
| 23 | マクロフォトカブラー FL 55, FL 58 | 各 4,500 円 | 31 | フラッシュオートリング B | 4,500 円 |
| | | | | (FD 50mm F 1.4, FD 35mm F 2 用) | |
| 24 | エクステンションチューブ M セット (M 5, 10, 20x2) | 3,600 円 | 32 | スピードライト 102 (一式) | 7,400 円 |
| 25 | フィルター 55 mm | 1,100 円 | 33 | フラッシュ V-3 (ケース付) | 3,500 円 |
| | 58 mm | 1,600 円 | 34 | フラッシュカブラー D | 800 円 |
| 26 | レンズフード BS-55 | 1,000 円 | 35 | フラッシュカブラー L | 近日発売 |
| 27 | レンズフード BS-58 | 1,000 円 | | | |



カメラの保存と手入れ

カメラの保存: カメラは湿気や埃を嫌います。長い間しまい込んで放置しておく、シミや錆を生ずることがあります。むしろ、しばしば使用して外気に触れさせてください。

保存の場合は、水銀電池を抜き、さらにケースからはずしてください。

カメラの手入れ: 野外で使ったカメラは塵埃がつきやすく、また雨の日や海辺で使ったあとは、気付かなくても水滴や塩分を受けてシミや錆を生じたり、レンズのヤケや腐蝕の原因になります。そのようなときには柔らかい刷毛で埃を払い、乾いた柔らかい布で丁寧に拭いてください。

レンズにはなるべく手を触れない方が無難で、ゴム球付きのブロワーで吹飛ばすか、柔らかい刷毛で軽く払う程度にしてください。

やむをえないときは洗いさらした柔らかい清潔な布を棒に細く巻き、先端にわずかに湿る程度のアルコール (エーテルを少量まぜればなお可) をつけ、レンズの中心から外側に渦巻きを描くようにして軽く拭きます。強く拭いたり、埃の付いているまま拭くと、かえってキズを付けますから注意が大切です。

フィルムのカスがたまると画面のよごれや事故の原因になります。お早目に手入れにお出してください。

カメラを海中に落したときは、ほとんど修理不可能です。この場合はカメラ材料店もしくは弊社サービスステーションにご相談ください。

カメラやレンズの紛失、盗難に際しては警察関係の届け出のほか、最寄りのカメラ材料店にご相談ください。店ではわずかの費用で全国の業者に連絡し、品物の発見にご協力申上げることができます。カメラやレンズの番号はいつでもわかるような心づかいをおすすめします。

極寒地では、カメラを撮影時以外に直接外気に触れさせないよう保護し、また手早く撮影を済ませるのが望ましいことです。そうすれば機能を落さずにすみませす。また冷えたカメラで撮影する場合、急激に温い室内に入れたり、照明などで急速に温度を上昇させると水分の凝結でレンズが曇り、撮影できないことがあります。

使用しないときは、レンズの保護のため、レンズキャップをつけてください。また水銀電池の消耗を防ぐためスイッチを OFF にしておいてください。

高温注意

カメラを高温な場所に放置しないようご注意ください。たとえば、車のリヤウィンドーやトランクの中はときに 60°C をこえることがあります。

36	ハンディスタンド F(一式)	4,900 円	43	キャノンリリース 30	550 円
37	コピースタンド 4	11,000 円	44	50	800 円
38	フォトマイクロユニット F (簡易顕写フード)	3,500 円	45	ギャゼットバッグ 4 型	3,500 円
39	58 mm クローズアップレンズ 240, 450, 1800	各 2,000 円	46	ギャゼットバッグ G-1	12,000 円
40	55 mm クローズアップレンズ 240, 450	各 4,000 円	47	レンズソフトケース SA	600 円
41	カメラホルダー F	2,000 円	48	レンズソフトケース SB	700 円
42	マイクロフォトフード	1,200 円	49	レンズソフトケース SC	700 円
			50	バッテリーチャージャー	10,000 円
			51	NiCd 500 FZ 電池	10,000 円

